

秋 田 市

秋田新都市開発整備事業関係  
埋蔵文化財遺構確認調査報告書

地蔵田B遺跡

**1996.3** 秋田市教育委員会

## 序

秋田新都市開発整備事業に係わる御所野丘陵部の埋蔵文化財につきましては、昭和56年度から平成5年度まで対処し、開発計画区域内31遺跡の発掘調査を全て終了いたしました。

ただし、昭和60年度に調査いたしました地藏田B遺跡の東側は地区公園の一部として保存する計画であり発掘調査はしておりませんでした。このたび散策園路を建設して公園を整備することになり遺構確認調査を実施いたしました。

調査の結果、縄文時代中期末葉の住居跡や土壇が確認され、遺跡の広がりをつかむことができました。

本報告書はその調査成果をまとめたものであり、文化財保護のため、さらには研究資料として広く活用いただければ幸甚に存じます。

最後に、調査の実施と報告書作成にご指導、ご協力くださいました関係各位の皆様に、深く感謝申し上げます。

平成8年3月

秋田市教育委員会  
教育長 石黒俊郎

## 例 言

- 1 本報告書は、散策園路建設及び擬木柵設置に伴う地藏田B遺跡（秋田市四ツ小屋末戸松本字地藏田）の遺構確認調査報告書である。
- 2 本報告書の執筆は、菅原俊行、石郷岡誠一の助言を得て安田忠市、進藤 靖が行った。
- 3 発掘調査による出土遺物、実測図、写真、その他の記録は秋田市教育委員会が保管する。

## 目 次

序

例言

目次

<b>調査の概要</b> .....	1
調査に至るまでの経過.....	1
調査期間と体制.....	1
調査の方法と経過.....	1
遺跡の位置と地形・地質.....	2
遺跡の概観.....	2
<b>調査の記録</b> .....	
基本土層.....	8
遺構と遺物.....	8
まとめ.....	20

## 調査の概要

### 調査に至るまでの経過

秋田市南東部地域は、昭和56年6月の秋田空港開港や東北横断自動車道秋田線秋田南インターチェンジ開設等により、空陸両面の交通の要衝に位置する所であることから、いち早く開発可能性等についての各調査が実施された。そして、縣市総合計画においても産業、住宅団地が一体となった総合的ニュータウン＝臨空港新都市（秋田新都市）として具体的に位置づけられた。

この開発計画に先立ち、昭和55年度に御所野台地全体の分布調査を実施し、約30ヶ所の遺物散布地を確認した。そして、昭和56年度には開発計画区域内の西部工業団地造成地における下堤D遺跡（秋田市「下堤D遺跡発掘調査報告書」1982年3月、秋田市教育委員会）、昭和57年度から昭和62年度、平成3年度から平成5年度まで31遺跡の発掘調査を実施して開発計画区域内の調査を終了した。

ただし、昭和60年度に発掘調査した地藏田B遺跡（秋田市「秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書」1986年3月、秋田市教育委員会）の東側は当初から地区公園の一部として現状保存する計画であったが、本年度散策園路の建設と擬木柵を設置して公園を整備することになり、対象地区の調査を実施した。

### 調査期間と体制

調査期間 平成7年4月17日～5月12日

調査主体者 地域振興整備公団

調査面積 350m<sup>2</sup>

調査担当者 秋田市・秋田市教育委員会

調査体制 秋田市教育委員会文化課

課長 菅原俊行

課長補佐 石郷岡誠一

文化財保護主事 安田忠市（調査担当）

主事 佐々木清

文化財保護主事 進藤靖（調査担当）

調査作業員 鈴木銀一、鈴木長治、三浦竹治、鈴木市太郎、三浦金司、鈴木末蔵、三浦初枝、三浦千枝子、三浦タキ子、鈴木ウメノ、高島綾子、鈴木博子、矢野富美子、鈴木キヨ、鈴木ルミ子

整理作業員 鈴木博子、鈴木ルミ子

### 調査の方法と経過

調査は散策園路建設及び擬木柵設置部分について実施した。まず、調査区内に任意の点1箇所を選定し、この基準杭から南北基線とこれに直交する東西基線に4×4mのグリッドを設定した。グリッドは、東西方向（X軸）に東から2文字のアルファベット（LG、LH、LI・・・）を、南北方向（Y軸）に南から2桁の数字（36、37、38・・・）を配し、その組み合わせをグリッド名とした。

なお、工事はローム面まで達しないことから遺構はローム面での確認にとどめ、できる限り遺構を保存することとした。

調査は4月17日から5月12日の日程で実施した。4月17日、機材を搬入し、調査を開始する。伐採作業と並行してグリッドを設定する。4月18日、掘り下げ開始。ローム面にて遺構を確認する。5月9日、平面実測及び遺構の

写真撮影を実施する。5月11日、埋め戻し。5月12日、機材を撤去して調査を終了する。

#### 来訪者

高橋忠彦（秋田県埋蔵文化財センター）、五十嵐芳郎（秋田考古学協会）、秋田市立御所野小学校6年生（44名）

#### 遺跡の位置と地形・地質

##### 遺跡の位置

秋田市街から国道13号線を南下し、仁井田、横山を過ぎ、坂を登ると標高約40m前後の広大な台地が開ける。これはJR奥羽本線四ツ小屋駅方面からもよく見える平坦な台地であり、御所野台地や末戸台と呼ばれている。この台地が秋田新都市開発整備事業計画区域である。

なお、各遺跡の位置については、第2図「御所野丘陵部発掘調査遺跡、範囲確認遺跡及び周辺遺跡」を参照していただきたい。

##### 遺跡の地形・地質

遺跡の存在する地形は、大別して和田丘陵と末戸台台地に分けられる。和田丘陵は平坦面をあまり持たない。しかし、定高性を持った標高60～150mのかなり開折を受けた老年期地形を示し、地形は第3系鮮新統に属する青色砂質シルト岩（笹岡層）と青灰色塊状泥岩（天徳寺層）、それに中新統に属する暗灰色泥岩（船川層）などからなっている。末戸台台地は標高25～50m強で、その表面は大変平坦である。この台地は和田丘陵と接して数段の段丘を識別できる。これらは内藤<sup>(註1)</sup>の区分からすると、上位から標高45～50m強の榑台段丘、標高40m強の上野台段丘Ⅰ、標高35m強の上野台段丘Ⅱ、標高25m強の宝竜崎段丘の4段階に分けられ、地藏田B遺跡は上野台段丘Ⅱに位置する。

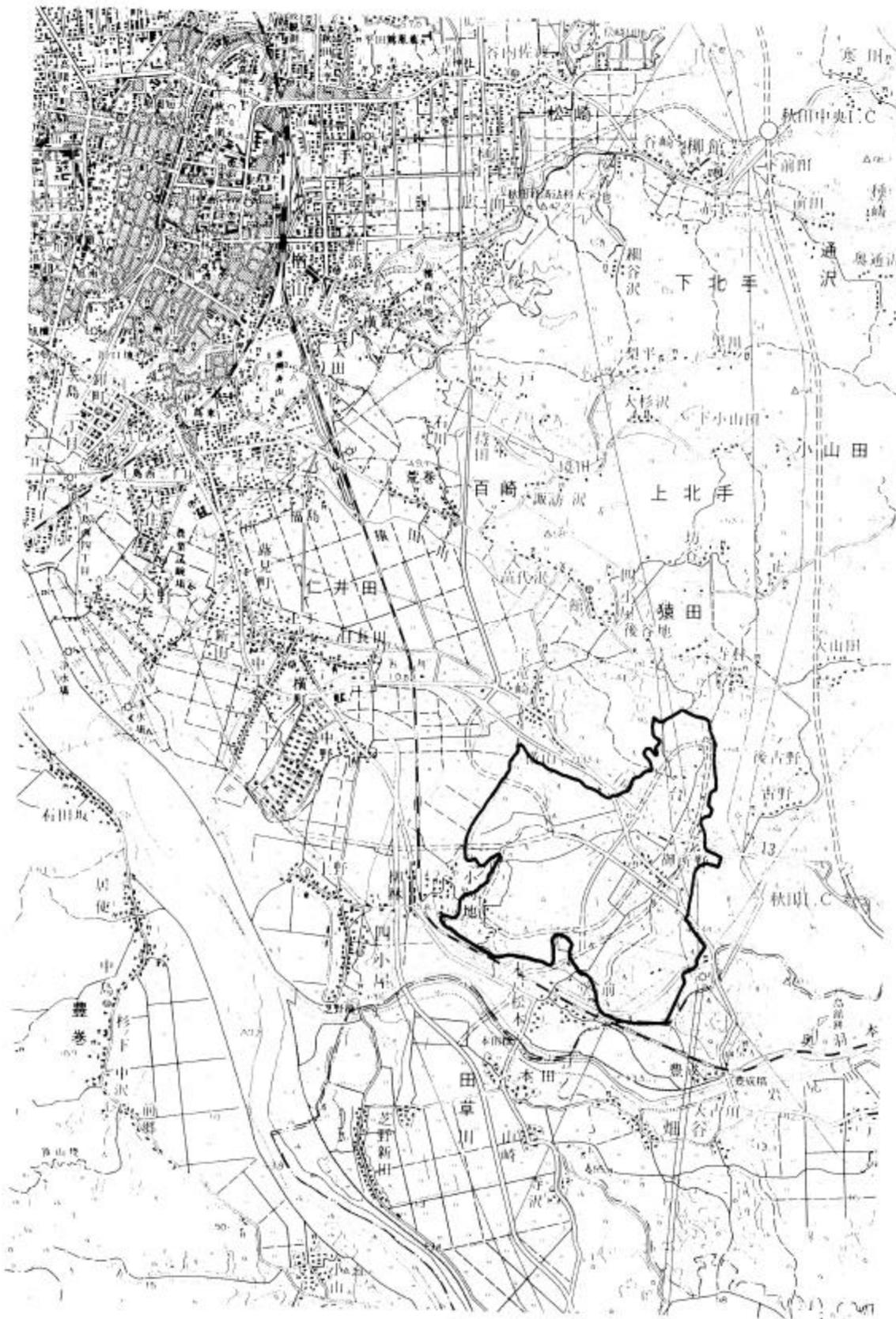
註1 「秋田県岩見川流域およびその周辺の段丘について」 内藤博夫 1965年 第4紀研究第4巻 第1号

#### 遺跡の概観

御所野台地の南側、JR奥羽本線四ツ小屋駅から南東へ約1.1kmの地点で、標高約31mの東西に長い舌状台地が遺跡である。

昭和60年度の発掘調査では、旧石器時代、縄文時代中期末葉、弥生時代の複合遺跡であることが判明しており、今回の調査では、縄文時代中期末葉の竪穴住居跡、土壇等が確認された。

隣接する遺跡は、西側約150mに旧石器時代、縄文時代中期末葉、平安時代の「秋大農場南遺跡」、東側約300mに縄文時代中期末葉、弥生時代の「湯ノ沢A遺跡」、東側約350mに縄文時代中期末葉の「湯ノ沢C遺跡」、北西側約500mに縄文時代中期初頭・末葉、弥生時代、平安時代の「坂ノ上F遺跡」、西側約500mに旧石器時代、縄文時代前期・中期末葉、弥生時代、平安時代の「地藏田A遺跡」、西側約600mに旧石器時代、縄文時代前期・中期末葉、弥生時代の「狸崎B遺跡」等の関連遺跡が所在する。



第1図 遺跡の位置

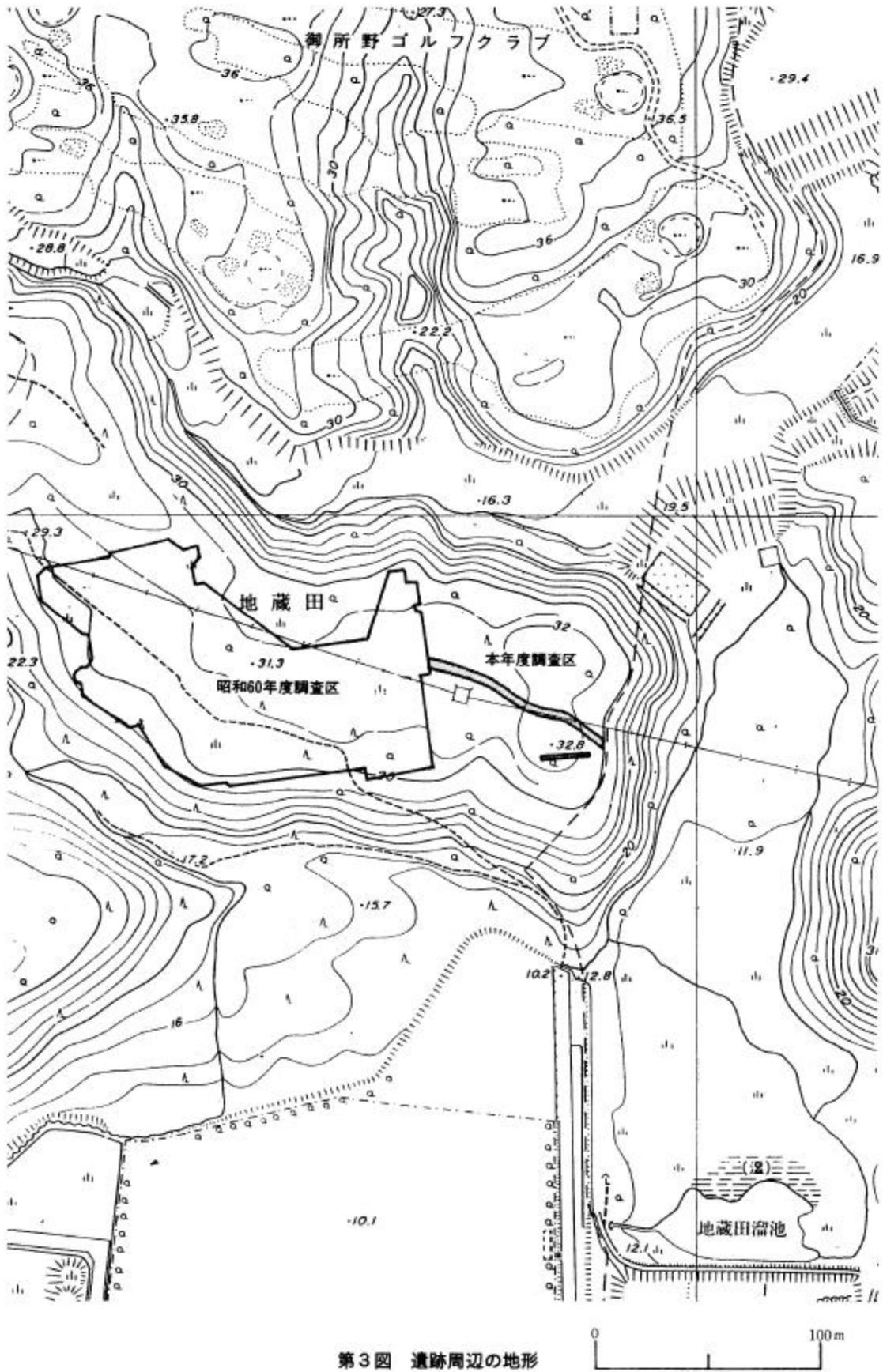


御所野丘陵部遺跡一覧表

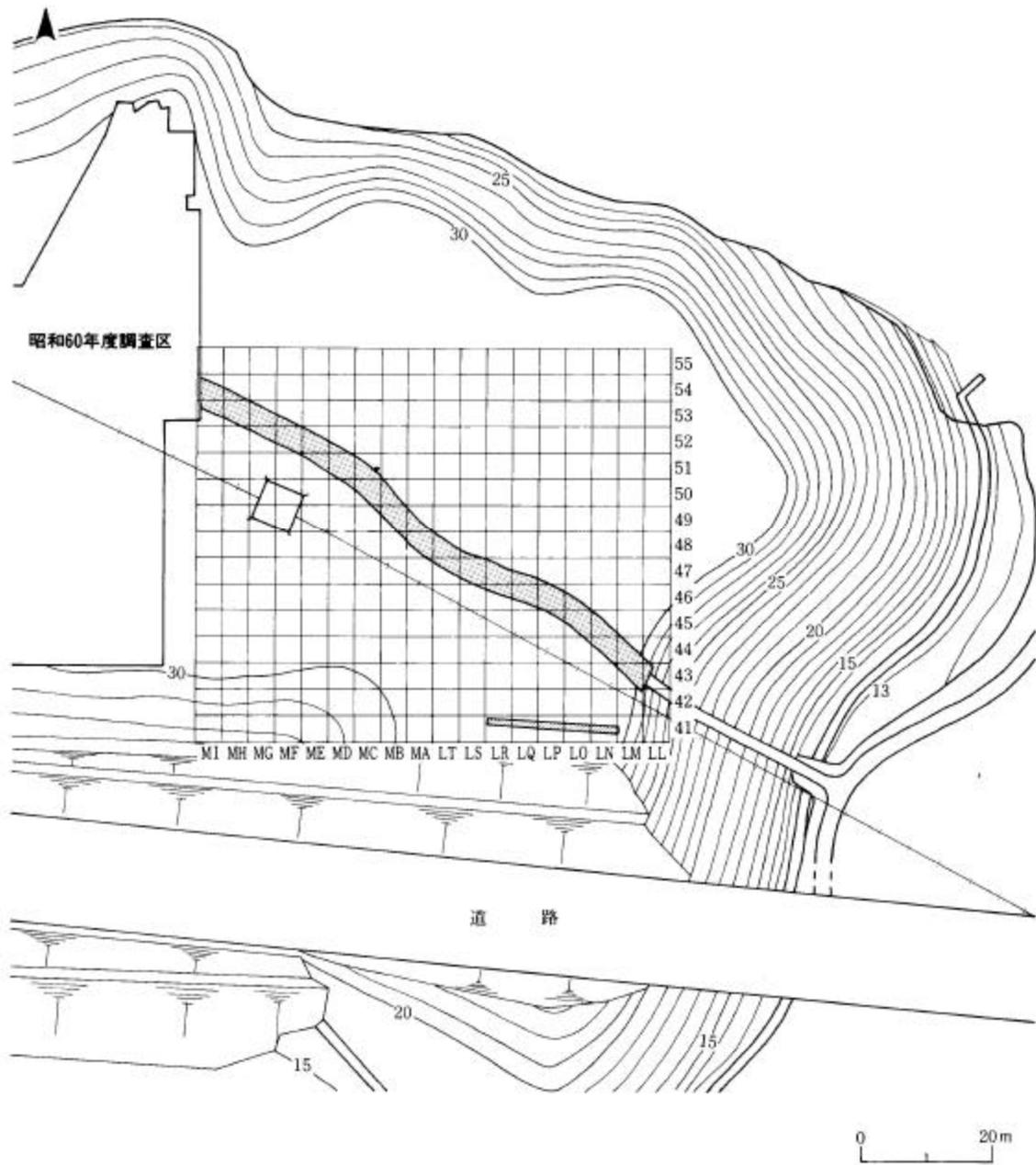
遺跡 番号	遺跡名	所在地	調査年度	調査面積 ㎡	内 容
1	下堤 E	秋田市四ツ小屋小阿地字下堤	S59	3,340	縄文(中期)集落
2	下堤 F	" "	S59	2,950	縄文(前、中期)集落
3	下堤 G	" "	S57	1,550	旧石器、縄文(前、中期)集落
4	坂ノ上 C	" 四ツ小屋小阿地字坂ノ上	S57	1,000	縄文(中、晩期)
5	坂ノ上 D	" "	S57	1,500	縄文(中、晩期)
6	坂ノ上 E	" "	S58	5,000	縄文(中期)集落、9~10c製鉄炉
7	坂ノ上 F	" "	S59	18,800	縄文(中期)集落、弥生住居跡
8	狸崎 A	" 四ツ小屋小阿地字狸崎	S59	1,910	縄文(前、晩期)土壌墓、弥生住居跡
9	狸崎 B	" "	H3.4	3,300	旧石器、縄文(中期)集落、弥生土壌群
10	地藏田 A	" 四ツ小屋末戸松本字地藏田	H4.5	6,000	縄文(前、中期)集落、弥生住居跡、土壌群、平安集落
11	地藏田 B	" "	S60.H7	12,000	旧石器、縄文(中期)集落、弥生集落棚木跡
12	湯ノ沢 A	" 四ツ小屋末戸松本字湯ノ沢	S58	3,000	縄文(中期)、弥生住居跡
13	湯ノ沢 B	" "	S57	2,340	縄文(中期)集落、平安住居跡
14	湯ノ沢 C	" "	S58	4,100	縄文(中期)集落
15	湯ノ沢 D	" "	S59	3,220	縄文(中期)集落
16	湯ノ沢 E	" "	S58	1,920	縄文(後期)
17	湯ノ沢 F	" "	S58.60	4,400	弥生土壌、平安墓(40基)
18	湯ノ沢 G	" "	S58	400	縄文(後期)
19	湯ノ沢 H	" "	S58	720	縄文(前、中、晩期)住居跡
20	野畑	" 上北手御所野字野畑	S57	640	縄文(中期)集落
21	野形	" 上北手御所野字野形	S58	980	平安住居跡、窯跡
22	深田沢	" 上北手古野字深田沢	S59	3,320	平安建物跡、住居跡
23	台 A	" 上北手古野字台	S60	2,000	住居跡(中期)集落
24	地方	" 上北手猿田字堤ノ沢	S61	11,500	縄文(中期)集落、(晩期)土壌墓
25	湯ノ沢 I	" 四ツ小屋末戸松本字湯ノ沢	S60	5,700	弥生
26	秋大農場南	" 四ツ小屋末戸松本字地藏田	H3	3,000	旧石器、縄文(中期)集落、平安住居跡
27	台 B	" 上北手猿田字寺ノ沢	S61	1,150	縄文(中期)
28	下堤 A	" 四ツ小屋小阿地字下堤	S62	11,000	縄文(中期)集落、平安集落
29	下堤 B	" "	S62	5,100	縄文(中期)集落、平安集落
30	下堤 C	" "	S61.62	17,700	平安集落
31	下堤 D	" "	S56	17,000	旧石器、縄文(前~晩期)集落、平安住居跡



第2図 御所野丘陵部免照調査遺跡、範圍確認遺跡及び周辺遺跡



第3図 遺跡周辺の地形



第4図 グリッド配置図

## 調査の記録

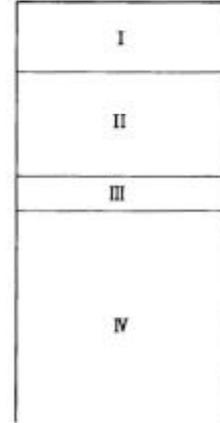
### 基本土層（第6図）

本遺跡の標高は約31mで、地形区分では上野台段丘IIにあたる。遺跡はこの上野台段丘IIのなかでも低位に位置する。

基本土層は、第I層 表土、第II層 暗褐色土（炭化物混入）、第III層 暗黄褐色土（炭化物混入）、第IV層 黄褐色土（粘土質、炭化物混入）で、第II層が遺物包含層、第III層がローム漸移層、第IV層がローム層（地山）である。

### 遺構と遺物

確認した遺構は、竪穴住居跡10軒、土壇9基で、全てローム面である。なお、遺構は未調査のため規模は推定であり、遺構に伴う遺物は覆土からの出土である。



第5図 基本土層柱状図

### 竪穴住居跡一覧表

番号	規模 (cm)		平面形	出土遺物
	長軸	短軸		
1	370	310	楕円形	第6図1～12（縄文中期末葉）、第13図1（再利用土製品）、第9図1（石鎌）、2、3（石匙）
2	300		円形	第6図13～20（縄文中期末葉）、第13図2（板状土製品）
3	570	260	長方形	第10図21～33（縄文中期末葉）、第16図3（土偶）、4、5（再利用土製品）、6（土製品）、第9図4（石鎌）、5（石匙）、6（搔器状石器）、第10図10（磨石）、11（石皿状石器）
4	420	320	楕円形	第7図34～37（縄文中期末葉）
5	不明	不明	不明	
6	不明	不明	不明	第7図38～41（縄文中期末葉）
7	430	350	楕円形	第7図42、第11図43～47（縄文中期末葉）、第16図7、8（再利用土製品）、第9図7（削器）、8（磨製石斧）、第10図12（くぼみ石）
8	480		円形	第8図48～52（縄文中期末葉）、第13図9（再利用土製品）、第12図9（ヘラ状石器）
9	520	470	楕円形	第8図53、54（縄文中期末葉）
10	240		円形	

土 墳 一 覧 表

番号	規 模 ( cm )		平 面 形	出 土 遺 物
	長 軸	短 軸		
1	110	70	楕円形	
2	50		円形	縄文土器片
3	75	65	楕円形	
4	120	65	楕円形	第8図55、56 (縄文中期末葉)
5	80	70	楕円形	第8図57~59 (縄文中期末葉)
6	100		円形	第8図60、61 (縄文中期末葉)、剝片
7	80	70	楕円形	
8	70	60	楕円形	
9	75	60	楕円形	

**出土土器**

遺構内・外出土器を形態により群に大別し、さらに類に細別した。

**第Ⅰ群土器** (第6図1~8、10、11、13~19、第7図21~30、34~36、38~42、第8図43~45、48~61、第11図62~80)

沈線区画の磨消帯を有するものである。

1類 (62~68)

沈線区画の磨消帯を有するもので、幅の狭い磨消帯が縦位方向へ展開する。全て深鉢形土器である。

2類 (2~8、11、13、15~19、21、23~30、34~36、38~42、49~52、54~59、61、69~80)

沈線区画の磨消帯を有するものである。磨消帯は曲線的に展開するもので、稜線で区画するもの、刺突文を加飾するものもある。深鉢形土器が主体で、口縁部が外反するものが多い。

3類 (1、10、14、22、34、43、45、48、53、60)

口縁部が磨消無文帯で、胴部地文のものである。磨消無文帯と地文部の境界である頸部に沈線を巡らすものが多い。口縁部が外反する深鉢形土器が主体で、磨消無文帯に刺突文が認められるものもある。

**第Ⅱ群土器** (第11図81、82)

数条の沈線によって文様を作り出すものである。

**第Ⅲ群土器** (第6図12、20、第7図31、32、37、第8図46、47、第12図83~102)

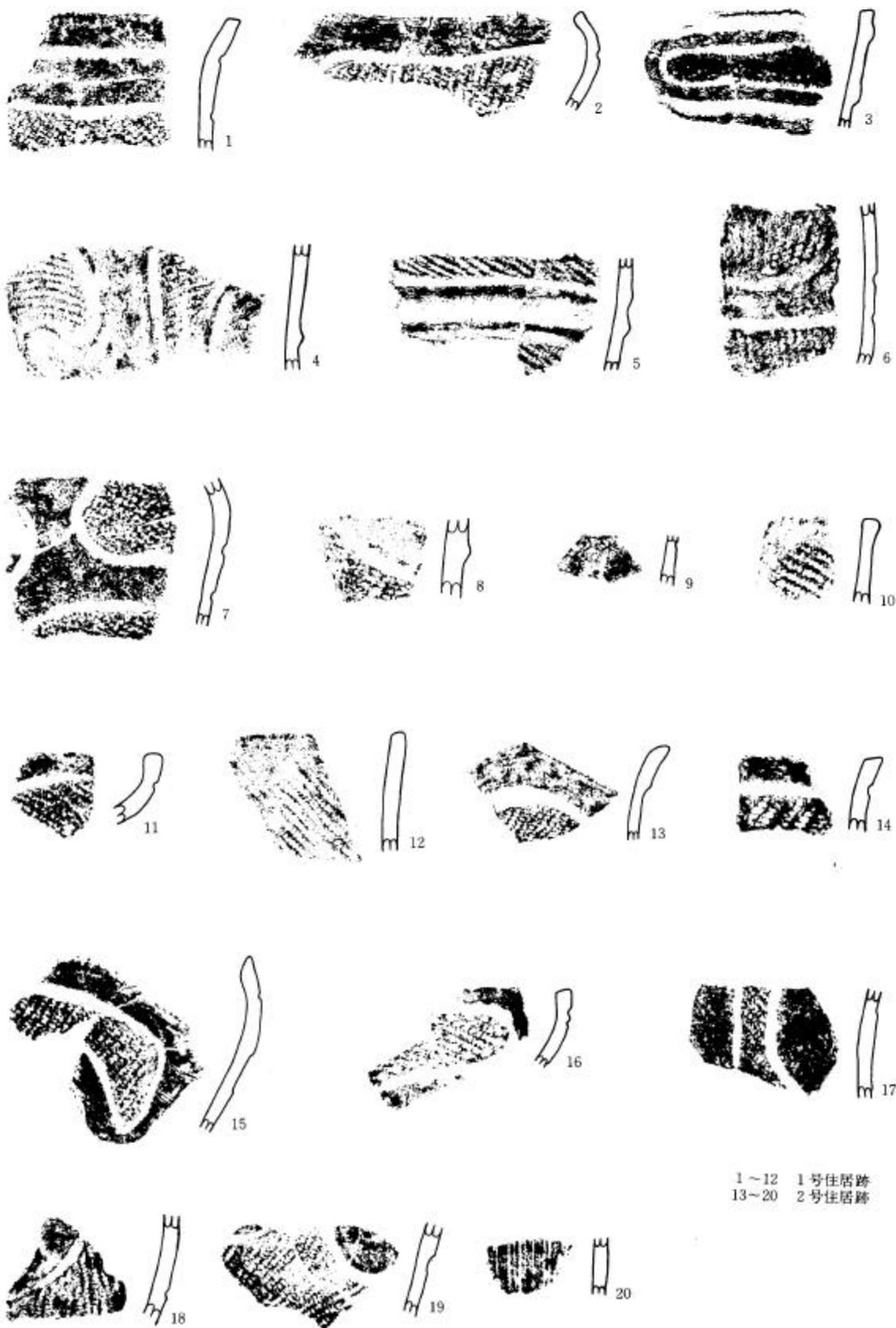
地文のみのものを一括した。斜縄文、撚糸文、条痕文を施すものである。

1類 (83)

0段多条の単節斜縄文を施すものである。

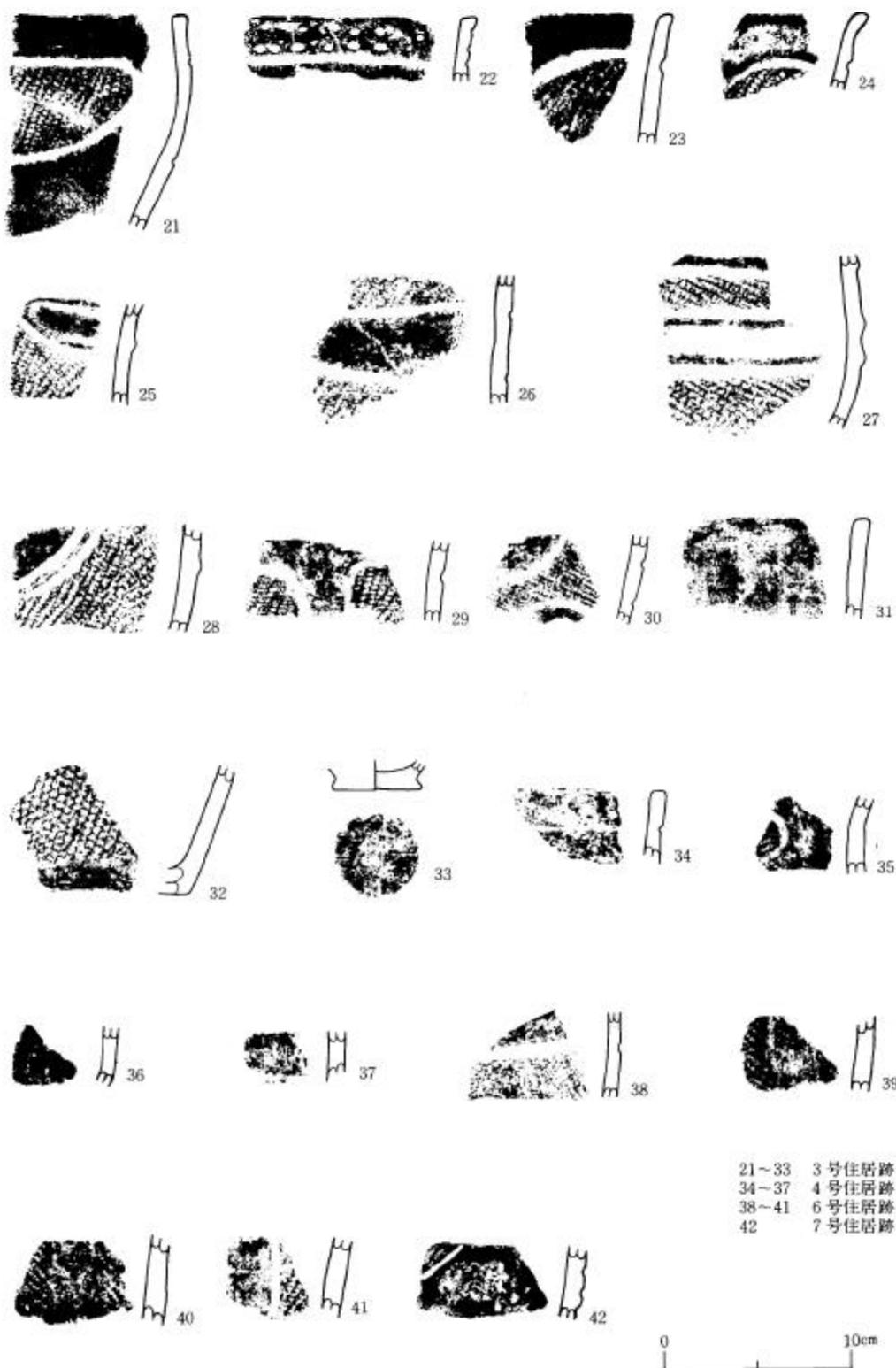
2類 (84)

無節斜縄文を施すものである。



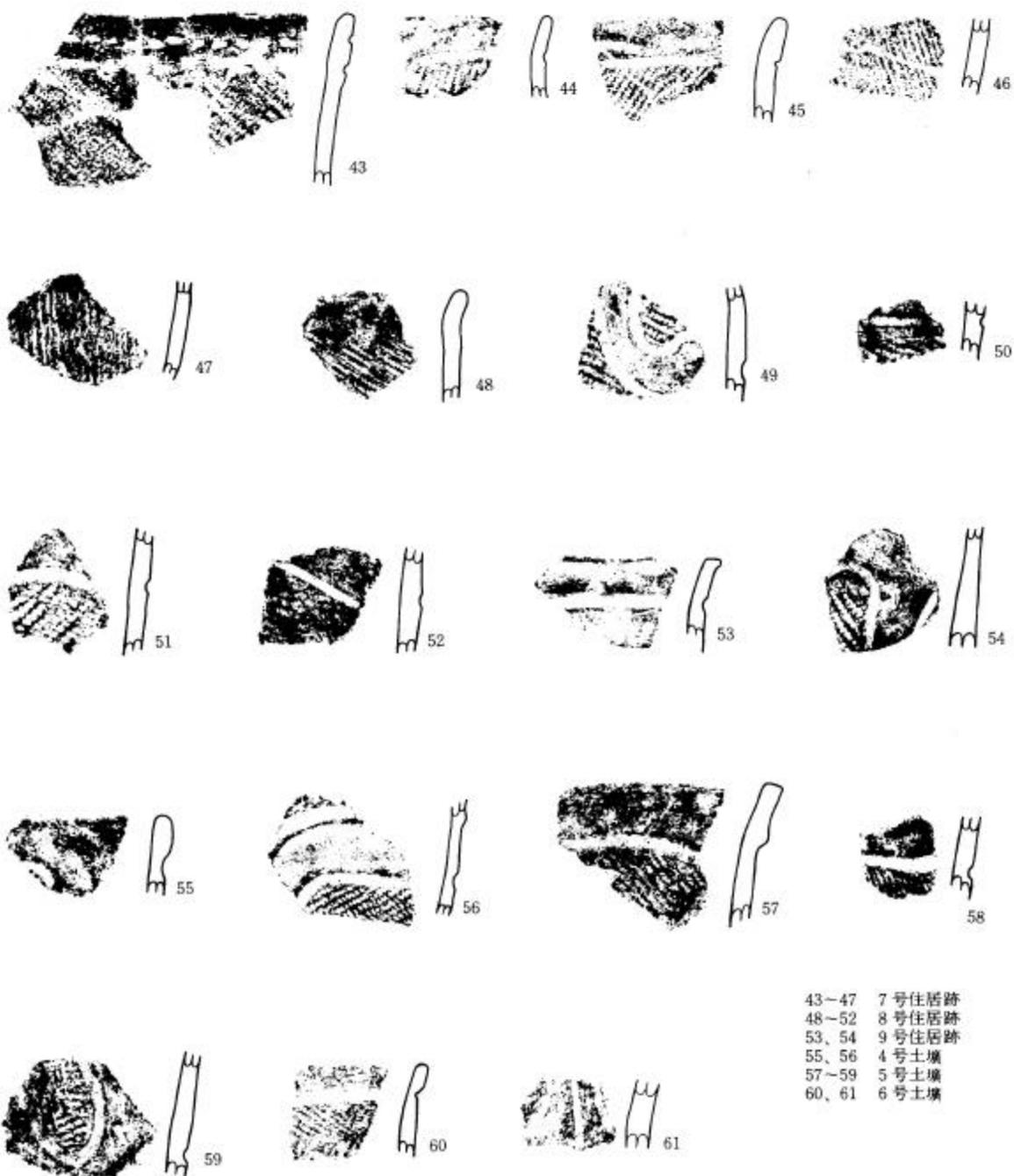
第6圖 遺構内出土土器

0 10cm



21~33 3号住居跡  
 34~37 4号住居跡  
 38~41 6号住居跡  
 42 7号住居跡

第7圖 遺構内出土土器



第8図 遺構内出土土器



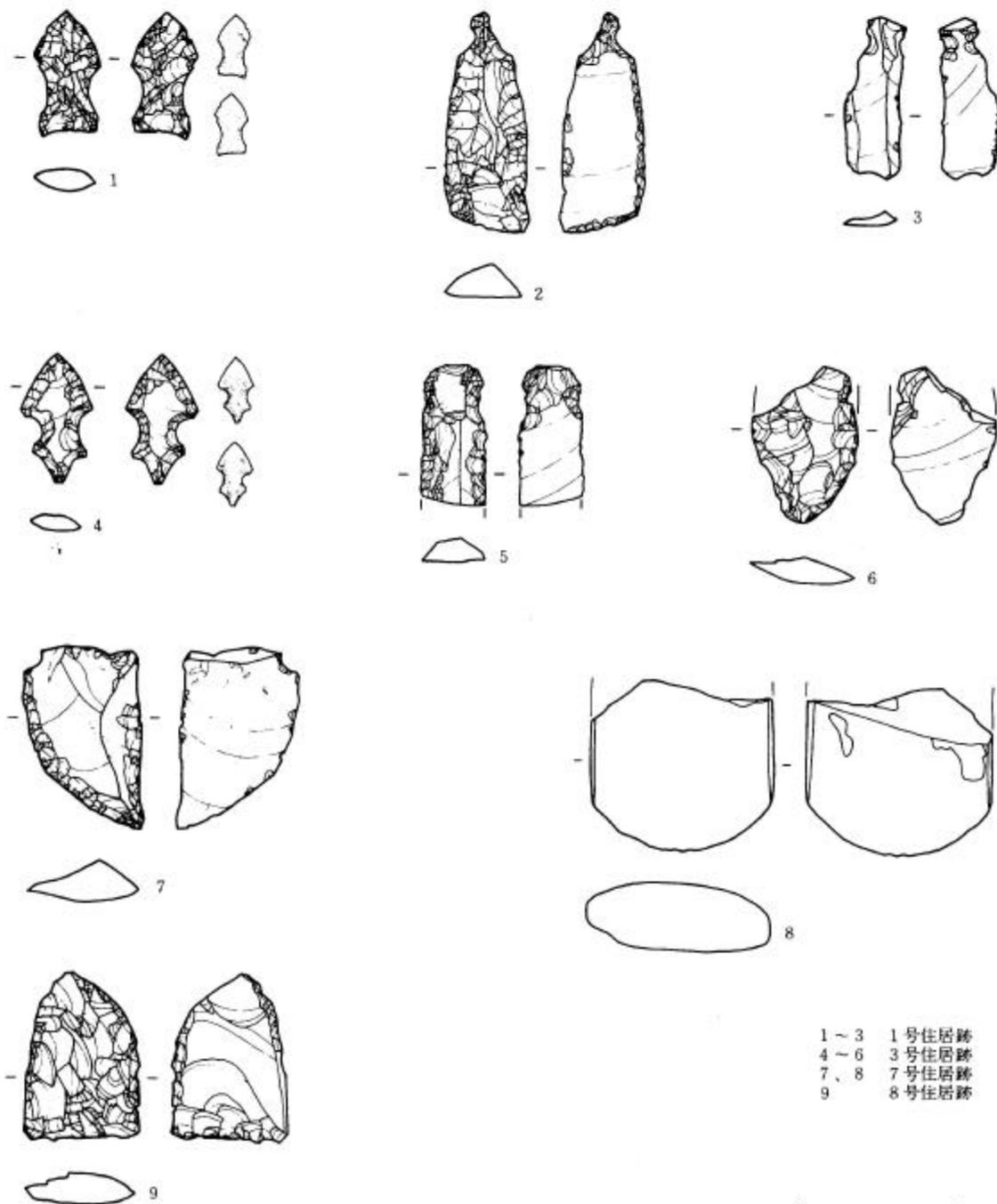
3類 (12、85~87)

単節斜縄文を施すものである。

4類 (32、88~91)

複節斜縄文を施すものである。

5類 (92)



- 1 ~ 3 1号住居跡
- 4 ~ 6 3号住居跡
- 7, 8 7号住居跡
- 9 8号住居跡

第9図 遺構内出土石器

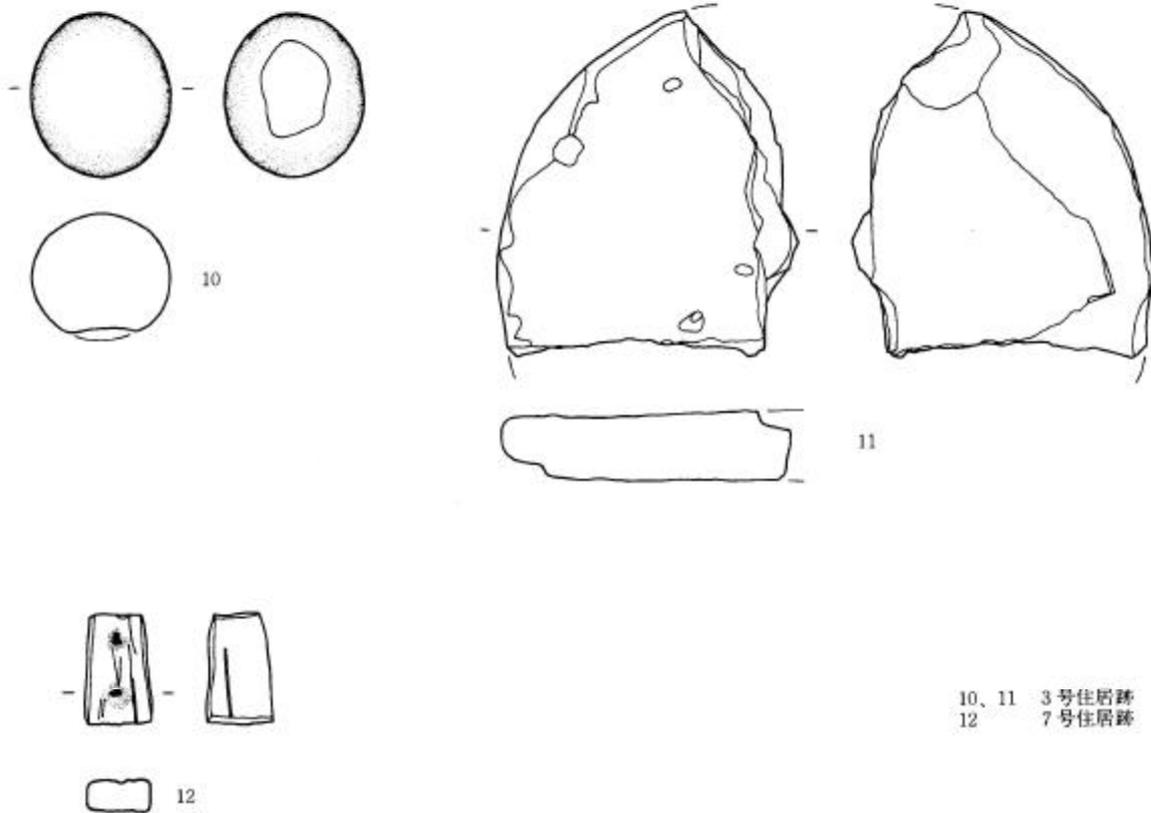
綾絡文が認められるものである。

6類 (46, 47, 93~100)

然糸文を施すもので、単軸絡条体を回転施文するものである。

7類 (20, 31, 37, 101, 102)

条痕文を施すものである。条痕は器面に対して縦位または斜位に施すもので、ほぼ直線をなす。



10, 11 3号住居跡  
12 7号住居跡

第10図 遺構内出土石器

0 10cm

**第IV群土器（第6図9、第7図33）**

無文帯に刺突文を巡らすもの、底部に竹葉痕が認められるものである。

**遺構外出土土製品**

**再利用土製品（第13図10～12）**

3点出土している。土器片を再利用したもので、11は円形、10、12は楕円形を呈する。

**遺構外出土石器**

**石匙（第14図13～15）**

3点出土している。13、14は縦型、15は横型で、両面調整により刃部を作り出している。13は刃部の一部が欠損し、石質は全て硬質頁岩である。

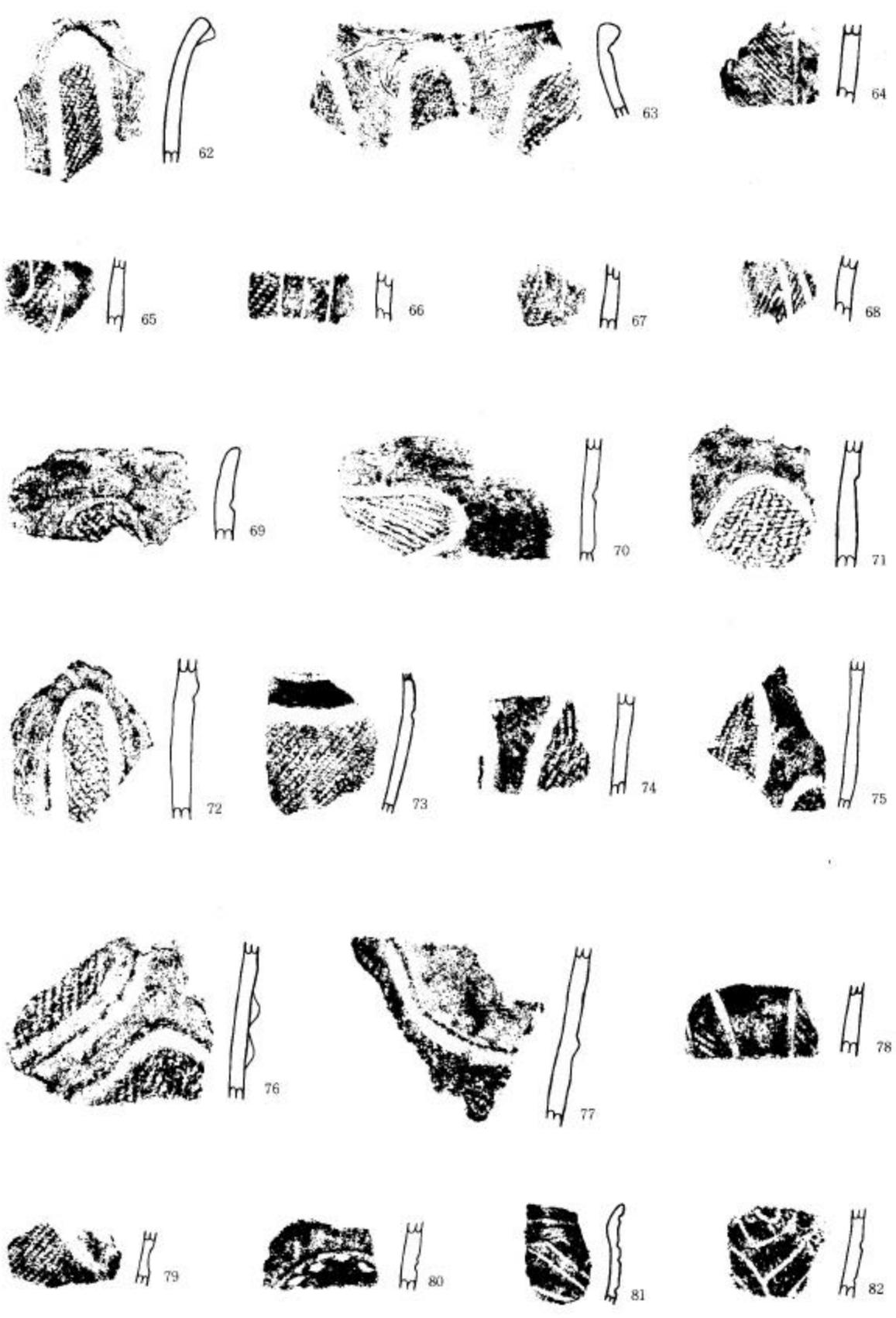
**ヘラ状石器（第14図16）**

左右対称で、両面調整のものである。平面形は撚形をなし、石質は硬質頁岩である。

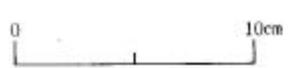
**搔器（第14図17）**

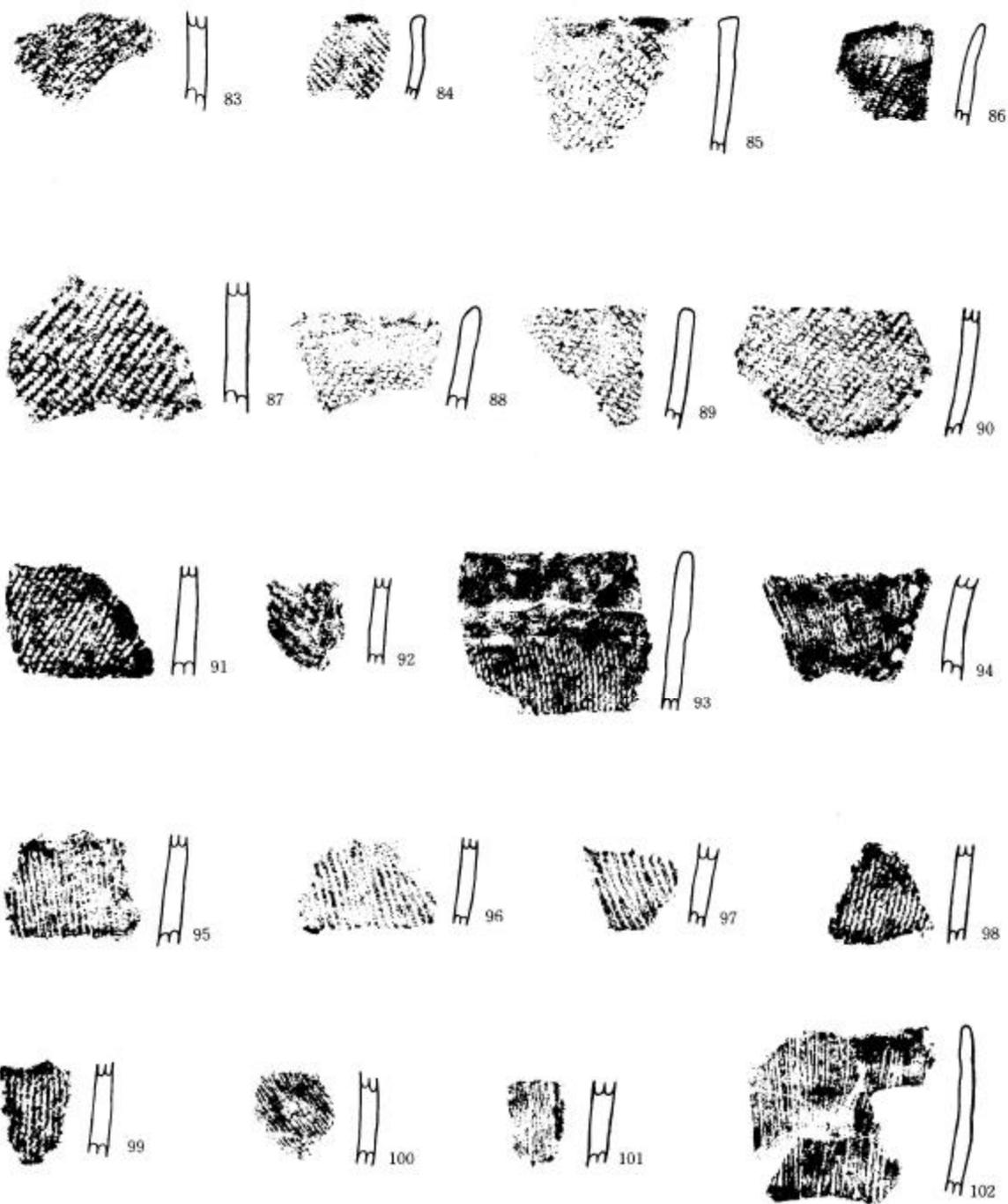
片面調整により刃部を作り出し、石質は硬質頁岩である。

**削器（第14図18）**



第11圖 遺構外出土土器





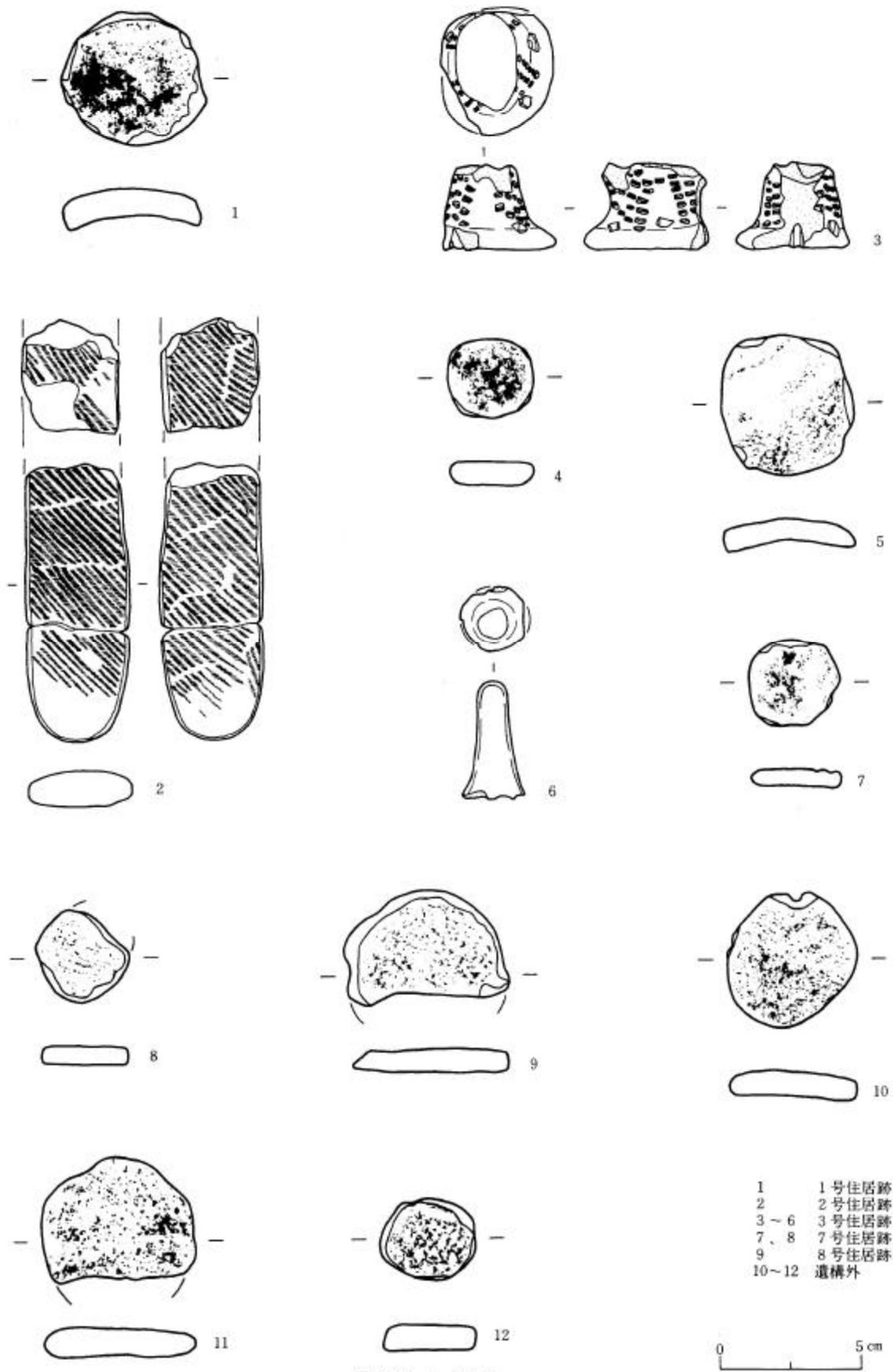
第12図 遺構外出土石器



一側縁部に片面調整により刃部を作り出し、石質は硬質頁岩である。

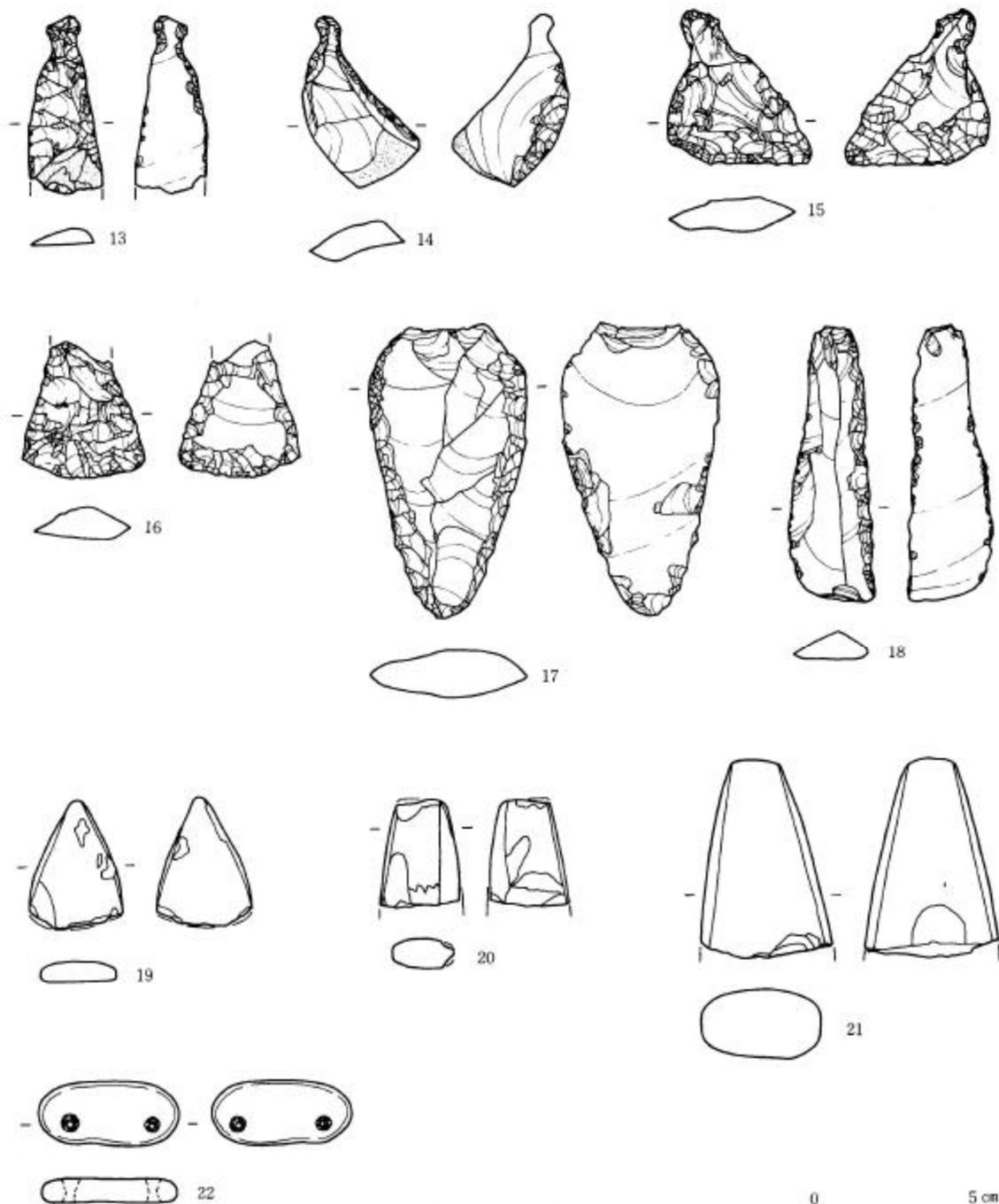
**磨製石斧（第14図19～21）**

3点出土している。全て破損しており、19、20は小形磨製石斧である。石質は19、20が粘板岩、21が凝灰岩である。



- 1 1号住居跡
- 2 2号住居跡
- 3-6 3号住居跡
- 7、8 7号住居跡
- 9 8号住居跡
- 10-12 遺構外

第13圖 土製品



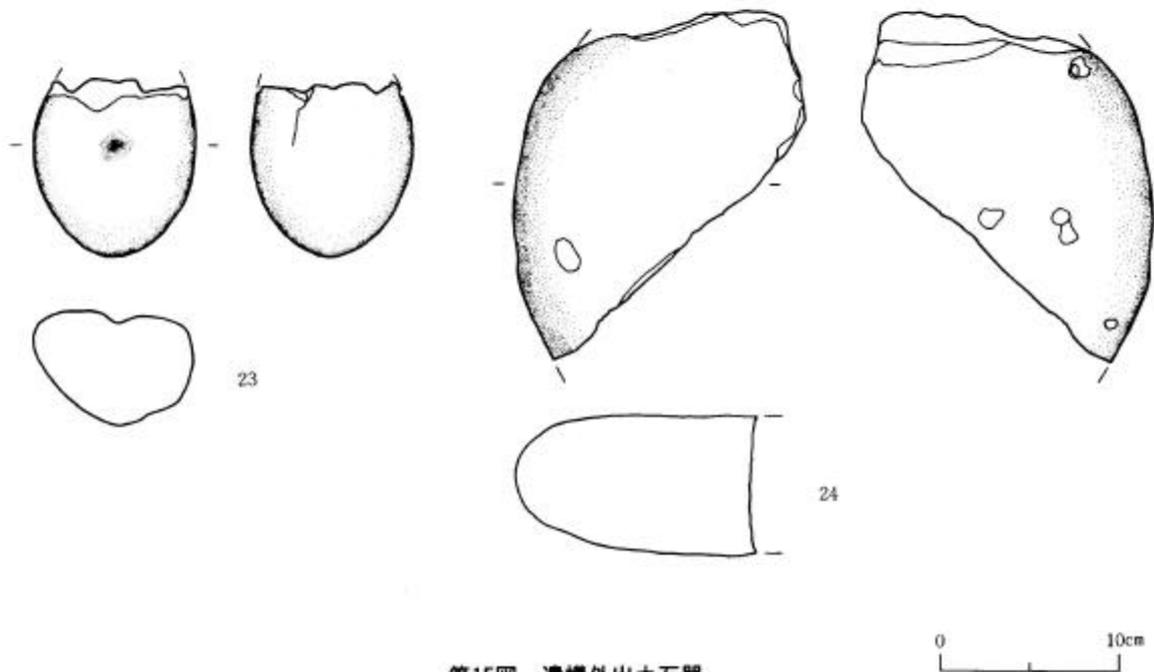
第14図 遺構外出土石器、石製品

くぼみ石 (第15図23)

自然礫の片面にくぼみ部が1ヶ所認められるものである。

石皿状石器 (第15図24)

板状のもので、全面的に磨れている。石質は安山岩である。



第15図 遺構外出土石器

石製品

有孔石製品 (第17図22)

細長い自然石の両端に両側から孔を穿ったもので、石質は泥岩である。

## ま と め

本遺跡は御所野台地の南側、標高約31mの東西に長い舌状台地に位置する。昭和60年度に発掘調査<sup>(註1)</sup>を実施し、旧石器時代、縄文時代中期末葉、弥生時代の複合遺跡であることが判明している。旧石器時代の遺物は、ナイフ形石器、台形様石器、ノッチ、磨製石斧等が出土している。縄文時代の遺構は、中期末葉の竪穴住居跡32軒と土壇等が検出されている。弥生時代の遺構は、前期の竪穴住居跡4軒、榎木跡3列、土器棺墓25基、土壇墓51基と土壇等が検出されている。

今回の調査は昭和60年度の調査区の東側を実施した。調査の結果、ローム面にて竪穴住居跡10軒、土壇9基を確認したが、工事がローム面まで達しないことから遺構はローム面での確認にとどめ、遺構を保存することとした。

竪穴住居跡は散策園路建設及び擬木柵設置部分の限られた範囲の調査であることから、規模、平面形を明確にとらえることはできなかったが、径2.4mから5.7mの円形ないしは楕円形を呈するものである。なお、3号住居跡は長方形を呈すると考えられ、本台地「湯ノ沢B遺跡<sup>(註2)</sup>」で類例が認められる。また、昭和60年度の調査では方形(17号、26号)、隅丸方形(6号、31号)、隅丸長方形(1号)を呈する住居跡が検出されている。

土器は第I群2類土器が主体であり、縄文時代中期末葉を中心とする時期に位置づけられる。

本遺跡では、昭和60年度の調査で西側に縄文時代中期末葉の竪穴住居跡が多数が検出され、今回の調査でも東側に当該期の竪穴住居跡がまとまって確認されている。調査の結果、竪穴住居跡は遺跡の中央部に認められないことから、西側と東側に集落が形成されていることが予想されるが、今後は遺跡全体の中で集落のあり方を捉えなければならぬ課題を含んでいる。

註1 「秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 地蔵田B遺跡」 秋田市教育委員会 1986年3月

註2 「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書 湯ノ沢B遺跡」 秋田市教育委員会 1983年3月

## 参考文献

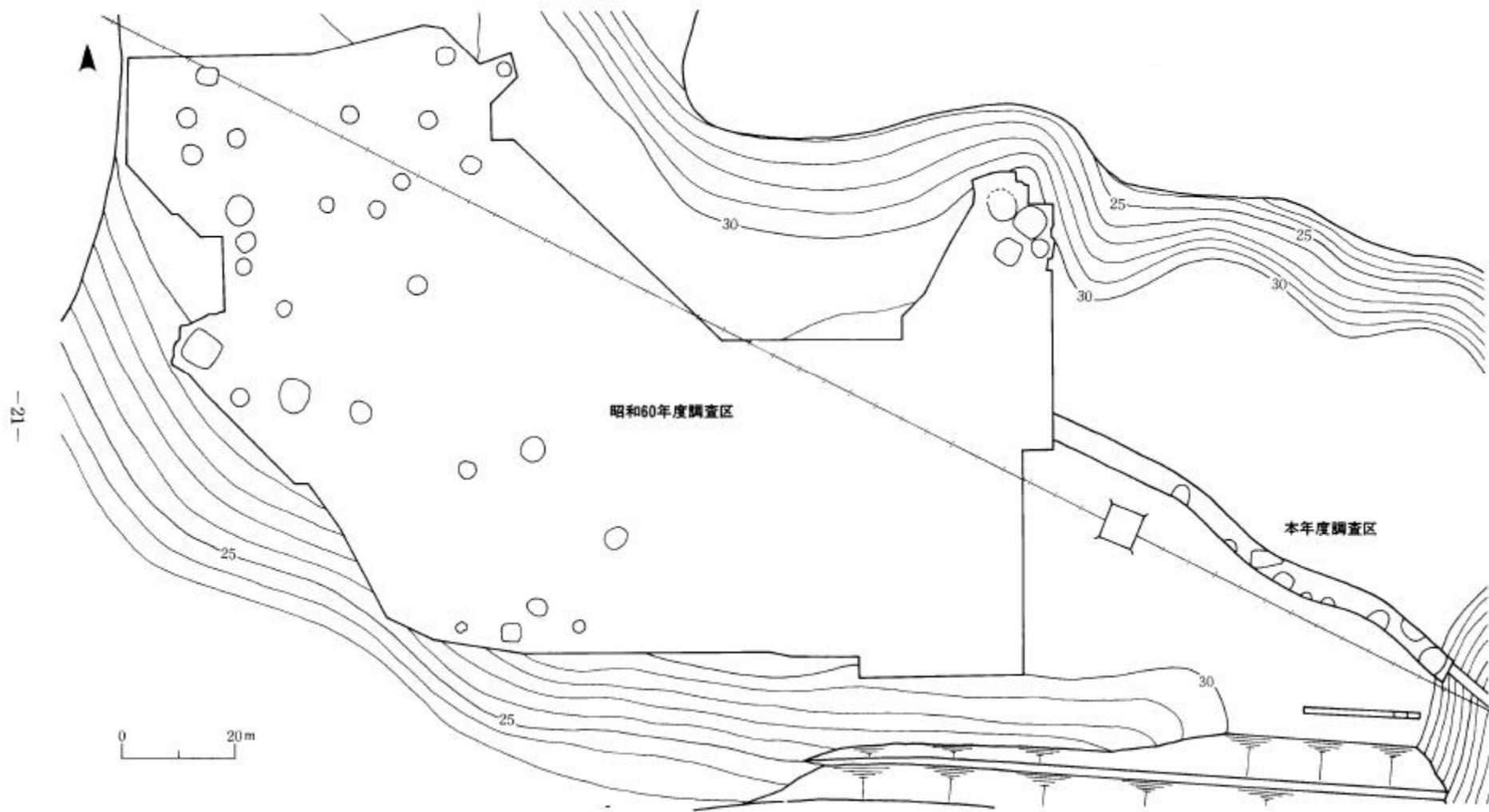
秋田市教育委員会：「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書 湯ノ沢A遺跡 湯ノ沢C遺跡」1984年3月

秋田市教育委員会：「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書 坂ノ上F遺跡」1985年3月

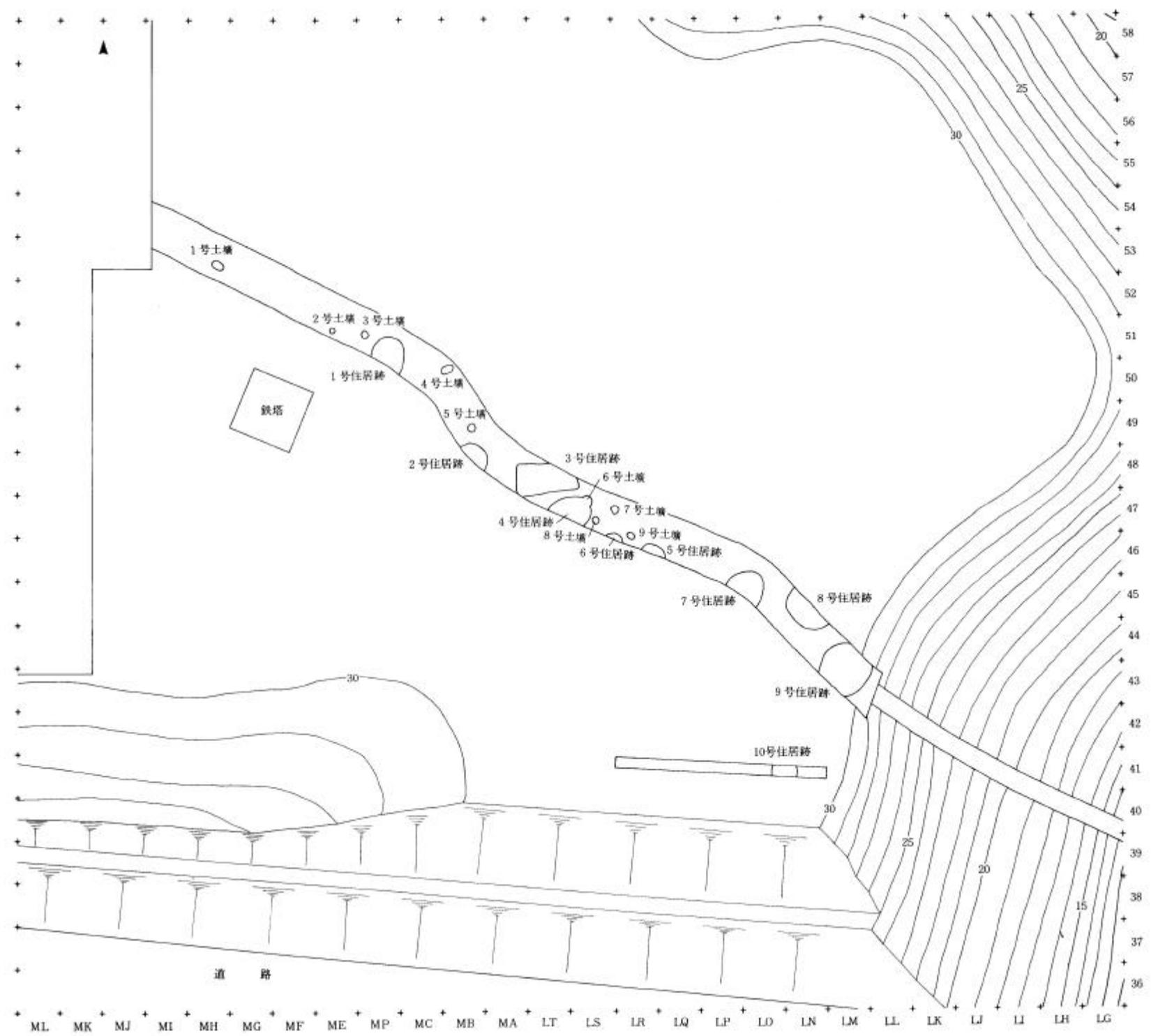
秋田市教育委員会：「秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 狸崎B遺跡 秋大農場南遺跡」1992年3月

秋田市教育委員会：「秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 狸崎B遺跡 地蔵田A遺跡」1993年3月

秋田市教育委員会：「秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 地蔵田A遺跡」1994年3月



第16図 竪穴住居跡分布図



第17图 遺構配置图



調査区（北西→）



遺物出土状況（南東→）

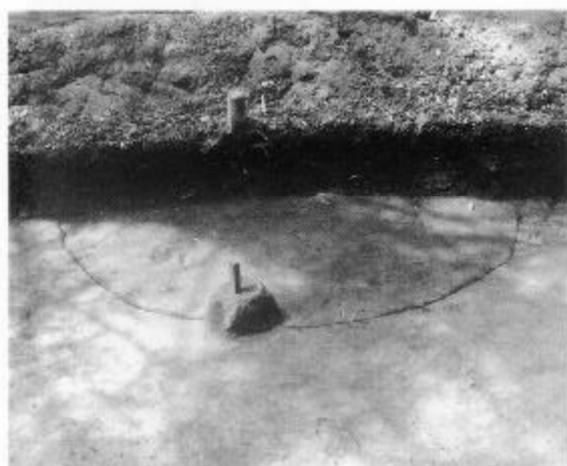
図版 1



1号住居跡遺物出土状況(北東→)



1号住居跡(北東→)



2号住居跡(北東→)



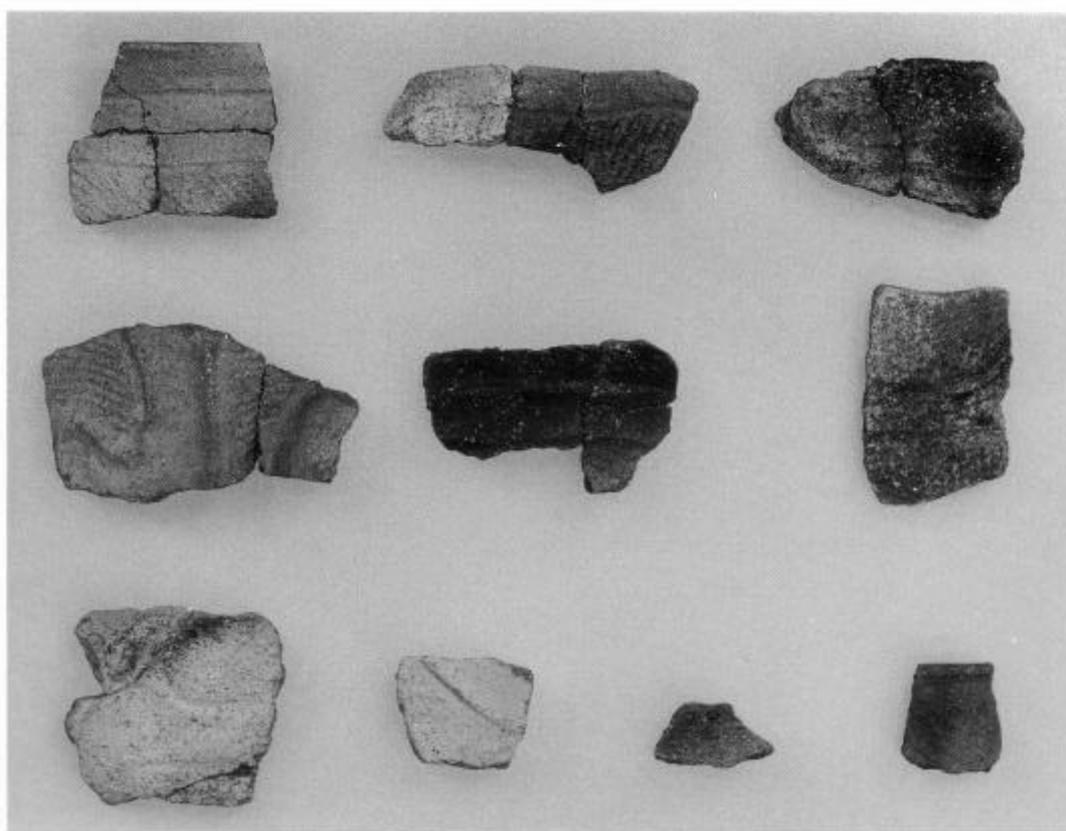
5号住居跡(北東→)



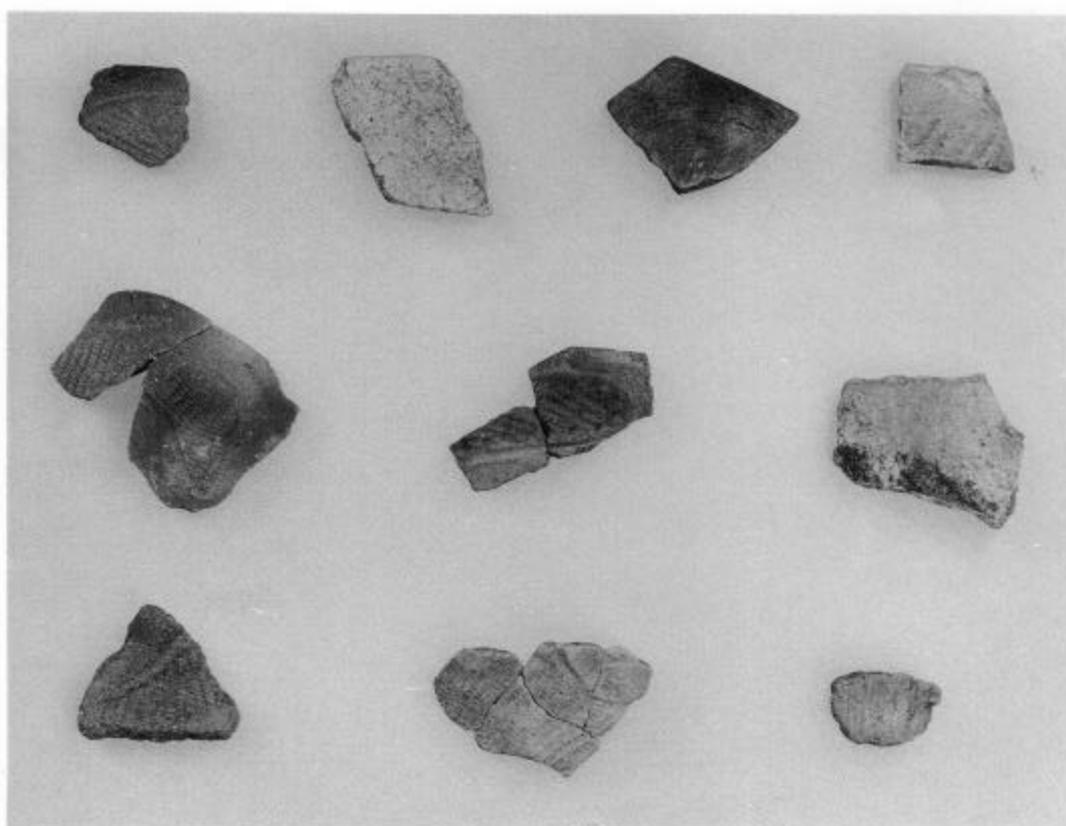
7号住居跡(北東→)



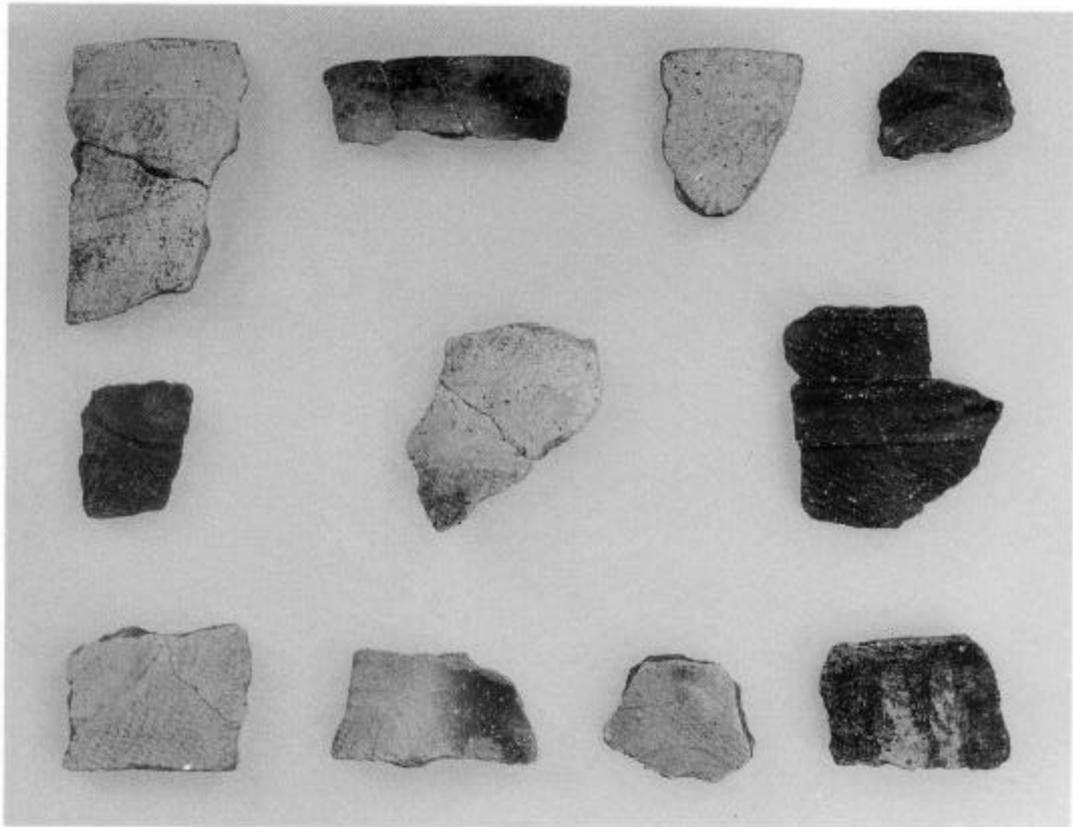
9号住居跡(北西→)



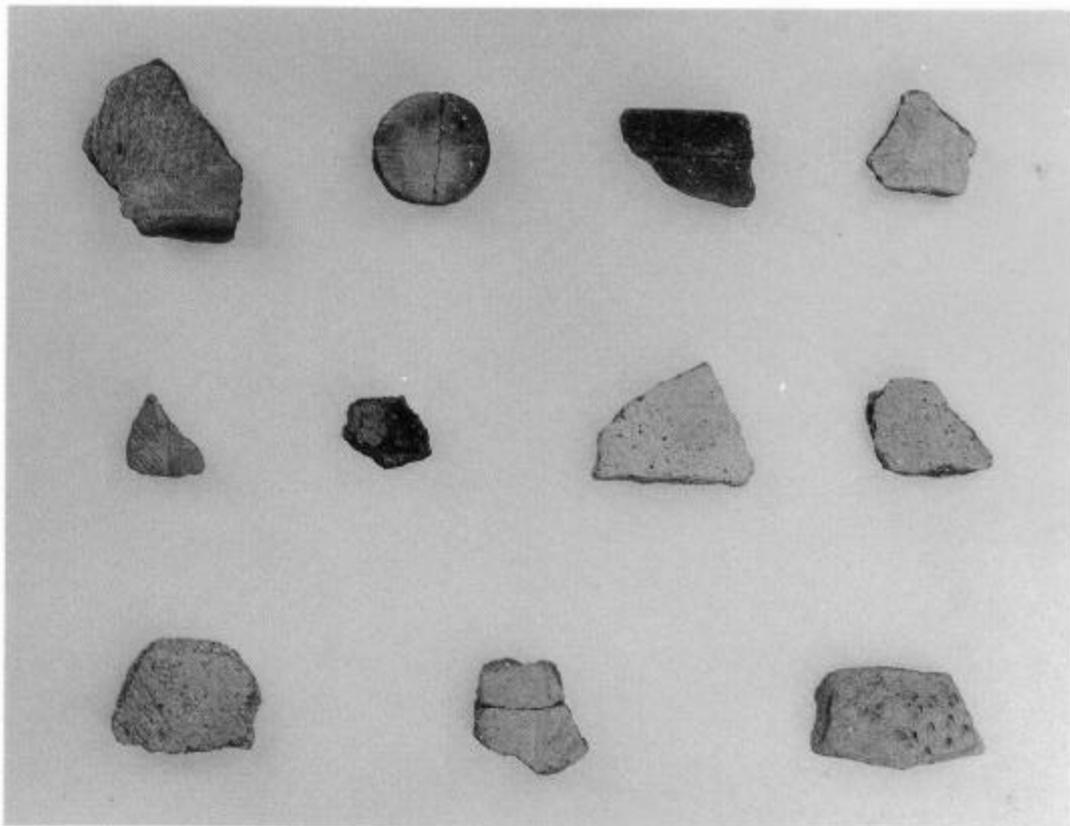
遺構内出土土器 (1-10)



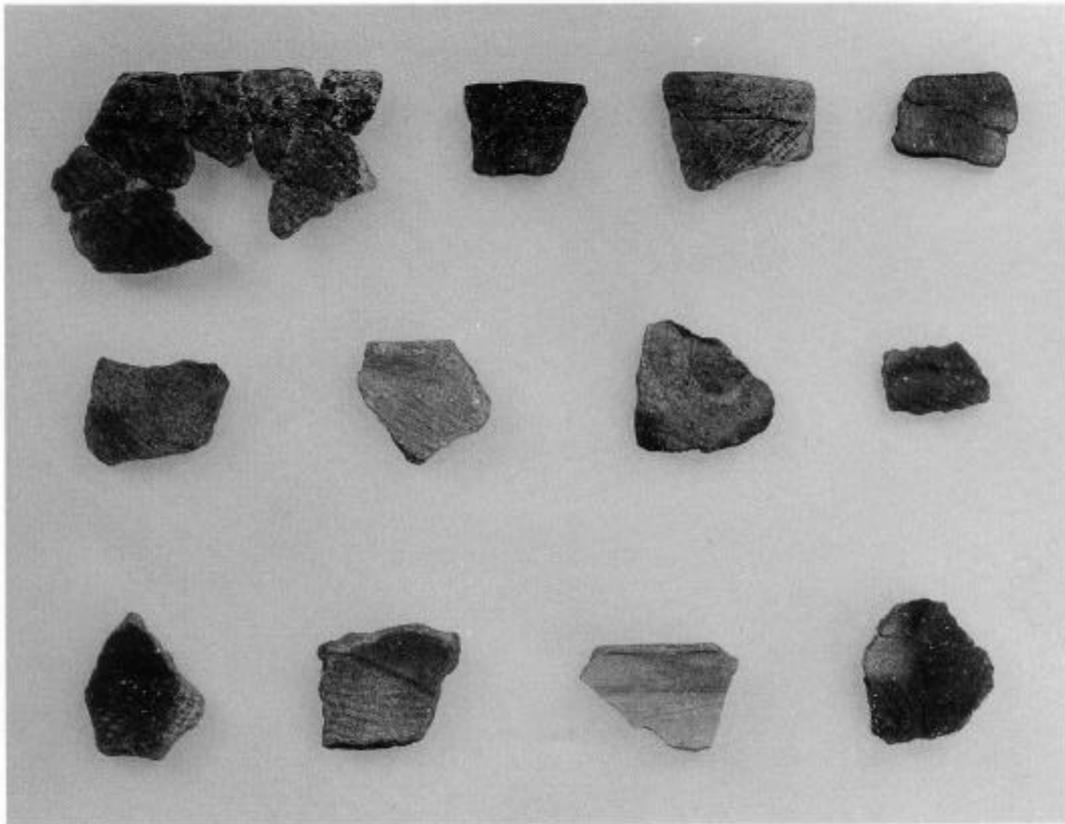
遺構内出土土器 (11-20)



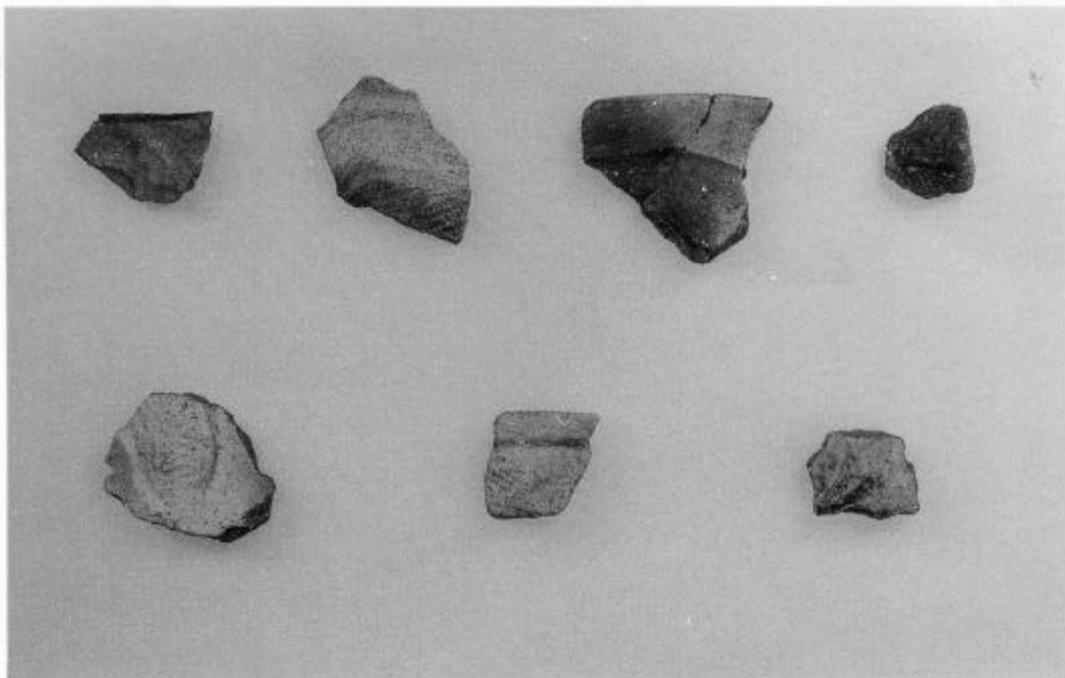
遺構内出土土器 (21~31)



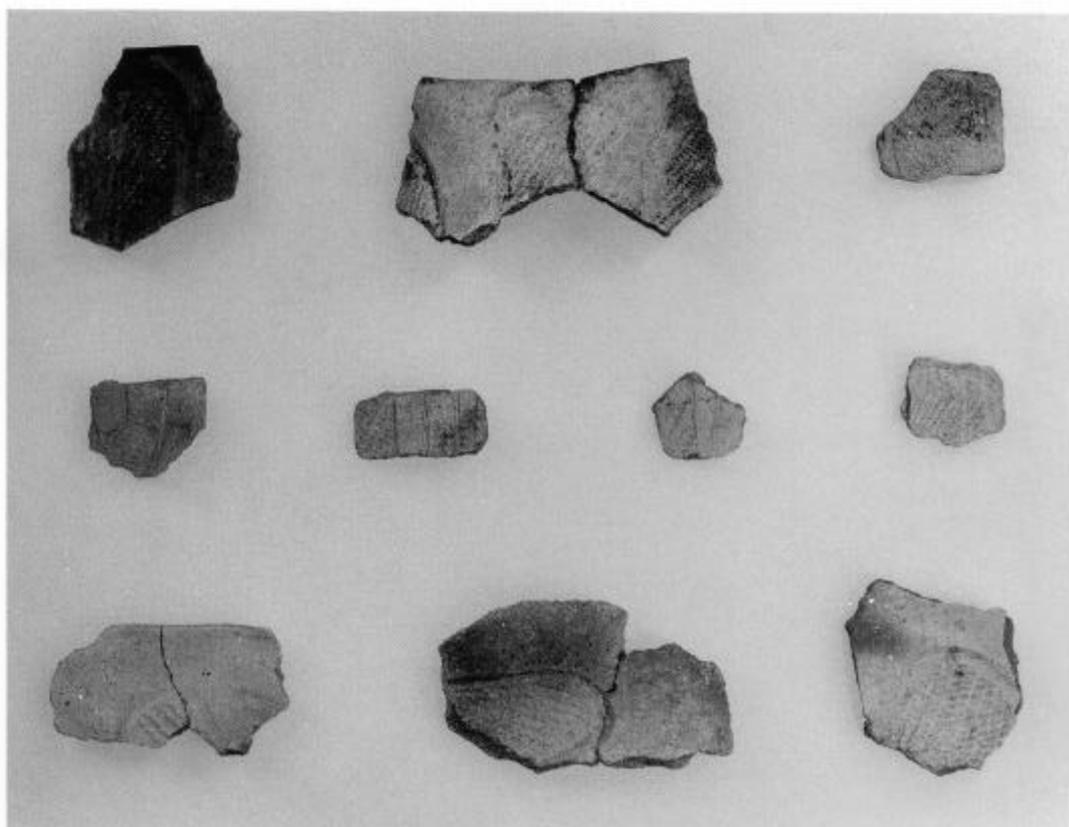
遺構内出土土器 (32~42)



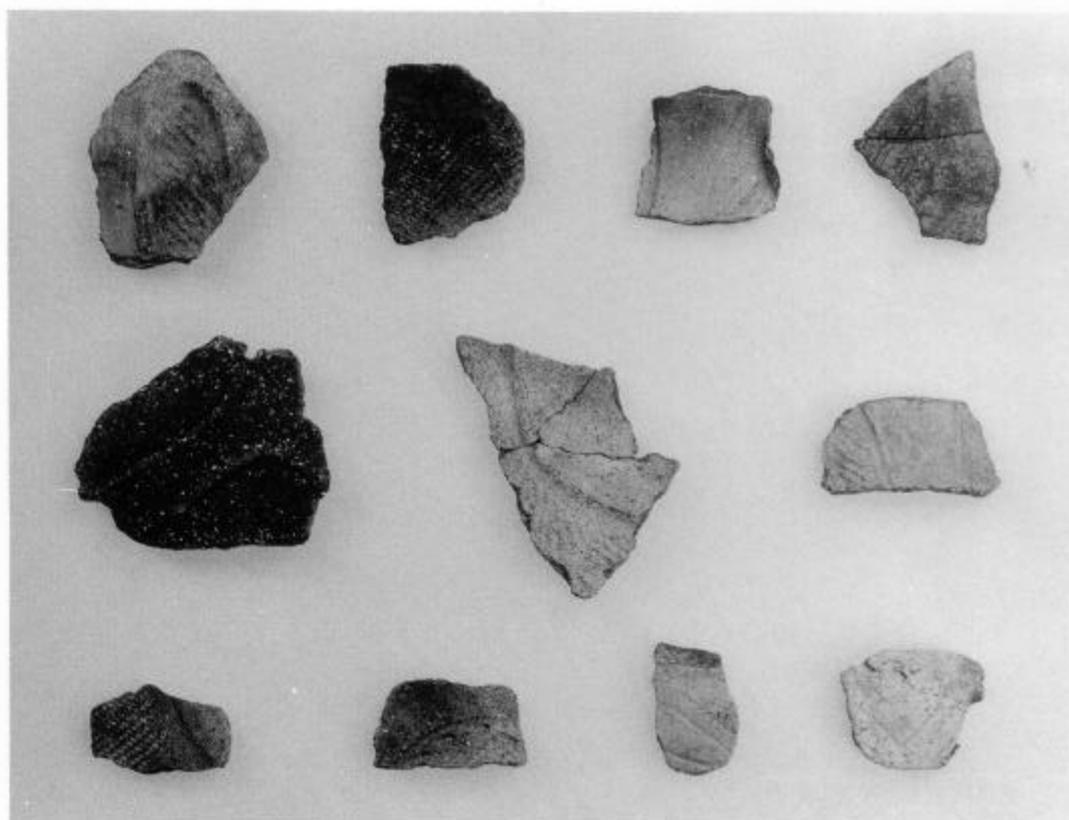
遺構内出土土器 (43~54)



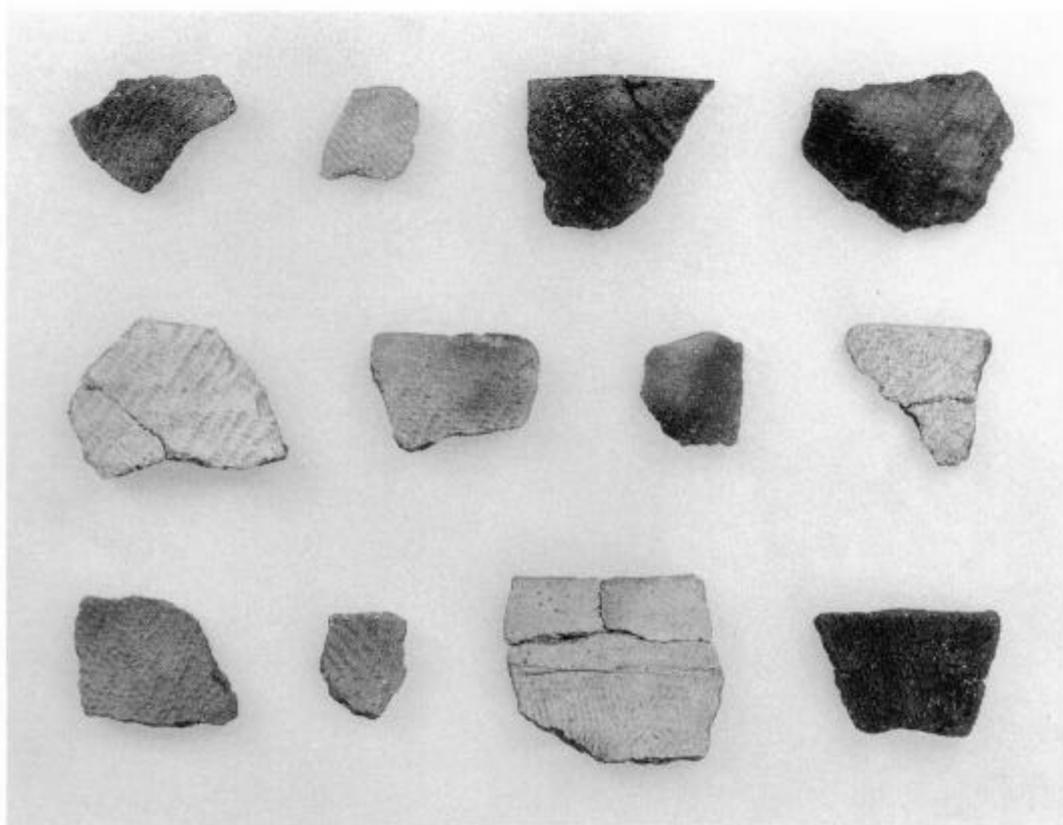
遺構内出土土器 (55~61)



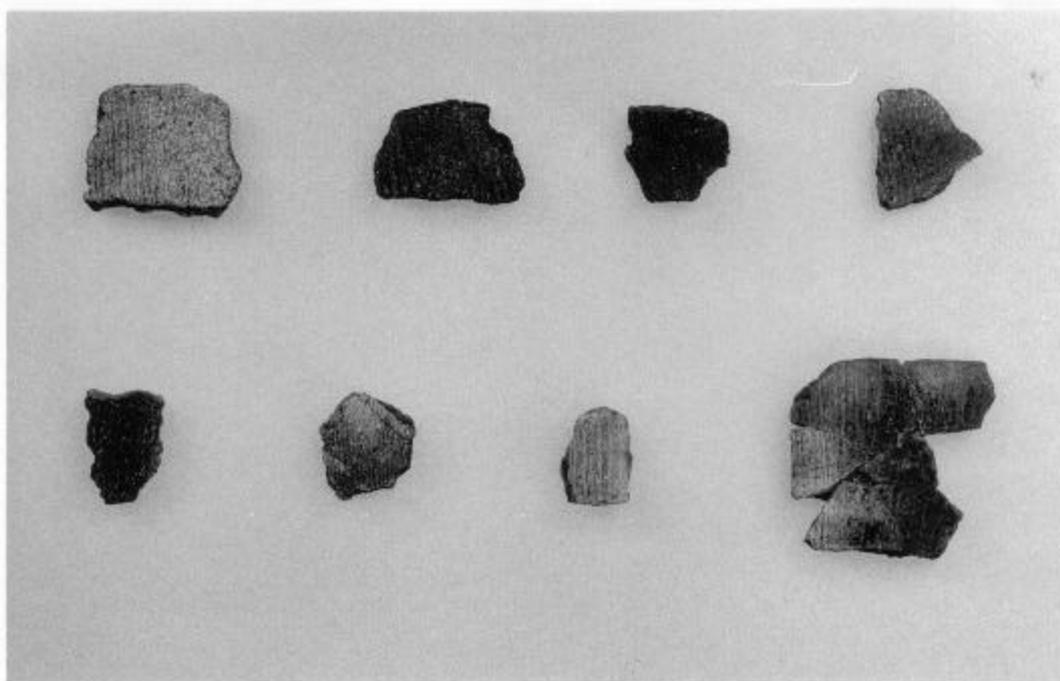
遺構外出土土器 (62~71)



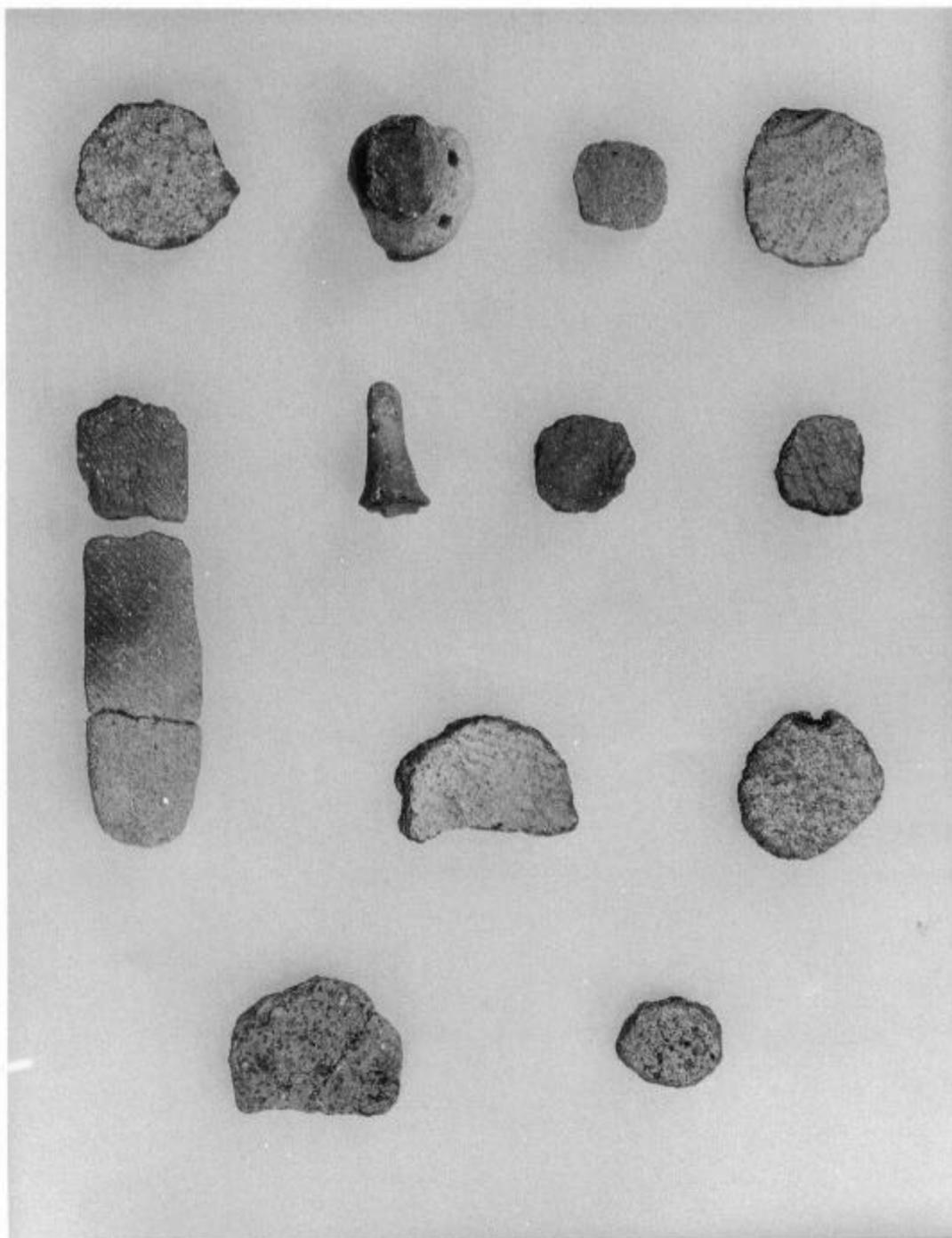
遺構外出土土器 (72~82)



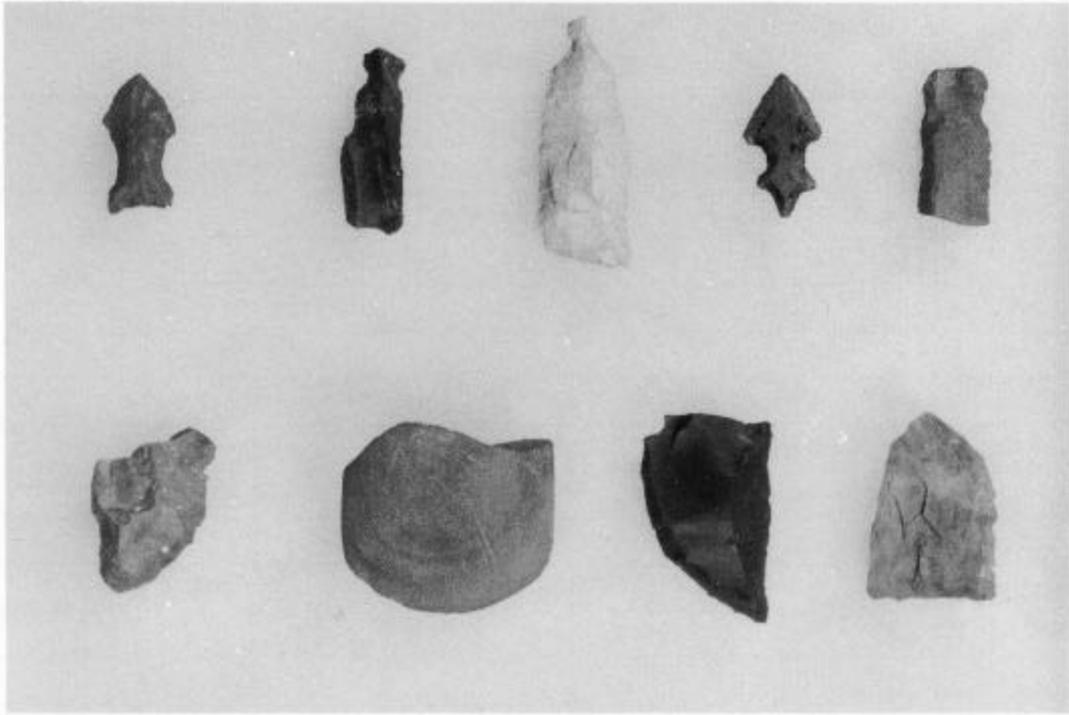
遺構外出土土器 (83~94)



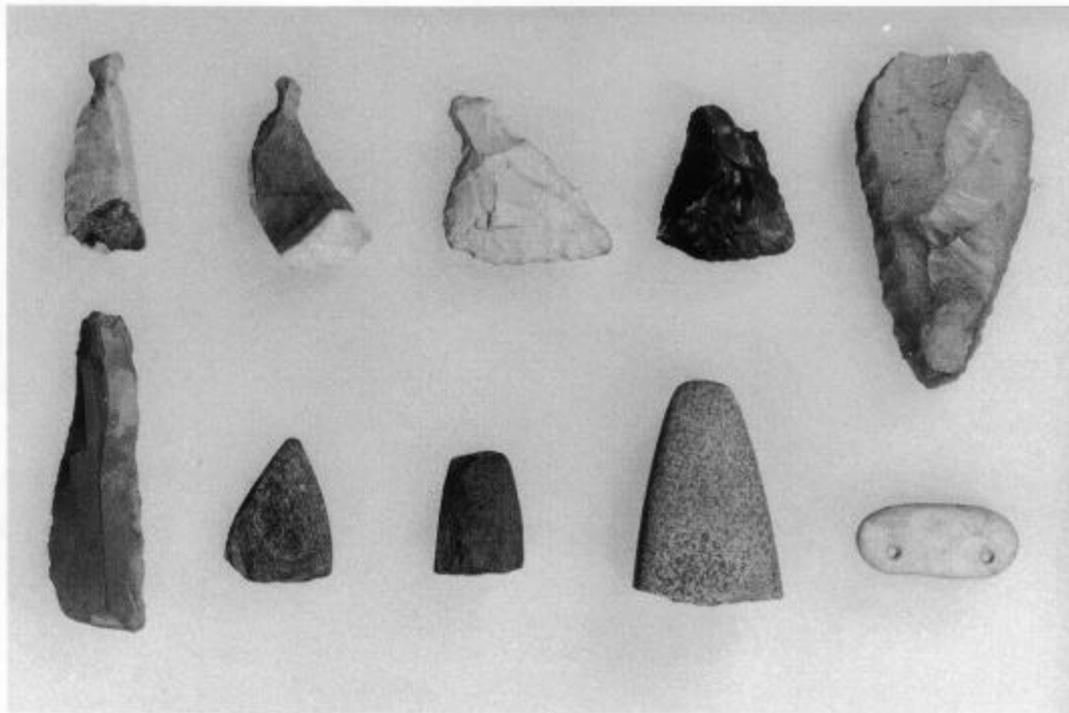
遺構外出土土器 (95~102)



土製品 (1~12)  
図版 8



遺構内出土石器 (1~9)



遺構外出土石器、石製品 (13~22)

図版 9

報告書抄録

ふりがな	あきた し あきた しんと し かいほつせいびじぎょうかんけいまいぞうぶんか ざいらいこうかくじんちようきほうこくしょ							
書名	秋田市秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財遺構確認調査報告書							
副書名	地蔵田B遺跡							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者	安田忠市、進藤 靖							
編集機関	秋田市教育委員会							
所在地	〒010 秋田県秋田市山王二丁目1-53 Tel 0188-66-2246							
発行年月日	1996年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯 ° ° °	東 経 ° ° °	調 査 期 間	調 査 面 積 m <sup>2</sup>	調 査 原 因
		市町村	遺跡番号					
じぞうでんびい 地蔵田B	あきた し よつ こ や 秋田市四ツ小屋  すえど まつもとあざじ ぞうでん 末戸松本字地蔵田	05201	311	39度 39分 18秒	140度 9分 43秒	19950417～ 19950512	350	新都市開発 に伴う事前 調査
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物		特 記 事 項		
地蔵田B	集落跡	縄文(中期)	竪穴住居跡 10軒 土壇 9基	縄文土器、土製品 石器、石製品		昭和60年度調査区 の東側で、遺構の 確認調査である 縄文中期(大木10 式期)の集落跡		

---

秋田市  
秋田新都市開発整備事業関係  
埋蔵文化財遺構確認調査報告書

平成8年3月

発行 秋田市教育委員会

印刷 秋田マイクロ写真印刷(株)

---